共同学校教育学専攻（後期３年のみの博士課程）

シラバス

令和７年度（２０２５年度）

北海道教育大学大学院教育学研究科

大阪教育大学大学院学校教育学研究科

福岡教育大学大学院教育学研究科

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	発達教育科学特別研究Ⅰ
	クラス	（受講生に応じて開設）
	担当教員	指導教員
	開講学期	通年
	開講時期	通年
	曜日・時限	
	科目区分	課題研究科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	共同
	授業概要	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて，「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき，研究課題を明確化する。また，研究課題に関する先行研究を整理するとともに，研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき，研究課題を明確化することができる。 ・先行研究，研究方法を考慮し，各自の研究構想を具体化することができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス 第2回～第9回　研究課題の明確化 　受講者が各自の研究課題について，研究の背景等を整理する。 第10回～第18回　先行研究の整理 　研究課題に係る先行研究を整理する。 第19回～第23回　研究方法の確立 　研究課題に関する研究方法の確認と研究計画の策定 第24回～第29回　研究構想の具体化 　研究課題，研究方法をまとめ，研究構想を具体化する。 第30回　まとめと今後の課題 　研究課題，研究構想のまとめと今後の見通しを確認する。 （共同／全30回，指導教員・副指導教員で受講者ごとに担当）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・研究課題の明確化（レポート，討議，40%） ・先行研究の整理（レポート，討議，30%） ・研究方法の確立（レポート，討議，30%）
	テキスト	毎回，必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	研究課題に合わせて，必要な参考書，資料等を提示する。
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	受講者の指導教員，副指導教員が中心となって演習を展開する。

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	発達教育科学特別研究Ⅱ
	クラス	（受講生に応じて開設）
	担当教員	指導教員
	開講学期	通年
	開講時期	通年
	曜日・時限	
	科目区分	課題研究科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	共同
	授業概要	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて，研究仮説と研究方法を構築する。また，臨床的研究の位置づけに基づき，学校現場での検証，データ収集，分析等を通して仮説検証を行い，エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに，各自の研究の成果については，共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い，今後の研究の方向性に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・各自の研究課題に対する研究仮説を構築し，研究計画を策定することができる。 ・研究フィールドとしての学校現場で，仮説検証を行い，課題解決に向けた主張を構成できる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス 第2回～第9回　研究仮説の構築 　受講者が各自の研究課題について，研究仮説を構築する。 第10回～第15回　研究方法の整理 　研究課題に係る研究方法を整理する。 第16回～第25回　検証・データ収集と分析・考察 　研究課題に関する検証，データ収集を行い，分析・考察する。 第26回～第29回　主張の構成 　検証，分析・考察の結果から，研究課題に対する主張を構成する。 第30回　まとめと今後の課題 　研究仮説，検証のまとめと今後の見通しを確認する。 （共同／全30回，指導教員・副指導教員で受講者ごとに担当）
	成績評価の方法	成績評価については，共同ネットワークラボの活動を４コマ（８時間）以上行っていることを前提に、以下の観点と方法により総合的に行う。 ・研究仮説と研究方法の構築（レポート，討議，30%） ・データ収集・検証と分析・考察（レポート，討議，40%） ・主張の構成（レポート，討議，30%）
	テキスト	毎回，必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	研究課題に合わせて，必要な参考書，資料等を提示する。
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	受講者の指導教員，副指導教員が中心となって演習を展開する。 積極的に共同ネットワークラボを活用し，研究交流を図る。

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	発達教育科学特別研究Ⅲ
	クラス	（受講生に応じて開設）
	担当教員	指導教員
	開講学期	通年
	開講時期	通年
	曜日・時限	
	科目区分	課題研究科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	共同
	授業概要	臨床発達教育科学に係る学位論文作成に向けて，収集したデータや検証の分析・考察を通して，臨床的研究としての研究成果を明確化する。また，これまでの研究の取り組みを，研究の背景，研究仮説や研究方法の構築，データ分析や検証の結果と考察等の観点から，学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて，各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・「学校教育学」に関する臨床的研究の成果として，研究課題に対する主張をまとめることができる。 ・これまでの研究の取り組みを，学位論文としてまとめることができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス 第2回～第9回　研究課題に対する主張の構築 　受講者が各自の研究課題に対する結論としての主張を明確化する。 第10回～第18回　学位論文構成の検討 　各自の学位論文執筆のための論文構成を検討する。 第19回～第23回　学位論文としてのまとめ 　各自の学位論文の内容を検討し，研究成果としてまとめる。 第30回　まとめと今後の課題 　学位論文の作成を振り返り，今後の課題を明確化する。 （共同／全30回，指導教員・副指導教員で受講者ごとに担当）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・研究課題の明確化（レポート，討議，40%） ・先行研究の整理（レポート，討議，30%） ・研究方法の確立（レポート，討議，30%）
	テキスト	毎回，必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	研究課題に合わせて，必要な参考書，資料等を提示する。
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	受講者の指導教員，副指導教員が中心となって演習を展開する。 必要に応じて，共同ネットワークラボを活用した研究交流を実施する。

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教科学特別研究Ⅰ
	クラス	（受講生に応じて開設）
	担当教員	指導教員
	開講学期	通年
	開講時期	通年
	曜日・時限	
	科目区分	課題研究科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	共同
	授業概要	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて，「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき，研究課題を明確化する。また，研究課題に関する先行研究を整理するとともに，研究方法に関する知見を活かして研究構想を具体化する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・「学校教育学」の研究領域としての位置づけに基づき，研究課題を明確化することができる。 ・先行研究，研究方法を考慮し，各自の研究構想を具体化することができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス 第2回～第9回　研究課題の明確化 　受講者が各自の研究課題について，研究の背景等を整理する。 第10回～第18回　先行研究の整理 　研究課題に係る先行研究を整理する。 第19回～第23回　研究方法の確立 　研究課題に関する研究方法の確認と研究計画の策定 第24回～第29回　研究構想の具体化 　研究課題，研究方法をまとめ，研究構想を具体化する。 第30回　まとめと今後の課題 　研究課題，研究構想のまとめと今後の見通しを確認する。 （共同／全30回，指導教員・副指導教員で受講者ごとに担当）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・研究課題の明確化（レポート，討議，40%） ・先行研究の整理（レポート，討議，30%） ・研究方法の確立（レポート，討議，30%）
	テキスト	毎回，必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	研究課題に合わせて，必要な参考書，資料等を提示する。
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	受講者の指導教員，副指導教員が中心となって演習を展開する。

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教科学特別研究Ⅱ
	クラス	（受講生に応じて開設）
	担当教員	指導教員
	開講学期	通年
	開講時期	通年
	曜日・時限	
	科目区分	課題研究科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	共同
	授業概要	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて，研究仮説と研究方法を構築する。また，臨床的研究の位置づけに基づき，学校現場での検証，データ収集，分析等を通して仮説検証を行い，エビデンスをもって課題の解決に向けた主張を構成する。さらに，各自の研究の成果については，共同ネットワークラボの活動を通して共有・意見交換を行い，今後の研究の方向性に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・各自の研究課題に対する研究仮説を構築し，研究計画を策定することができる。 ・研究フィールドとしての学校現場で，仮説検証を行い，課題解決に向けた主張を構成できる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス 第2回～第9回　研究仮説の構築 　受講者が各自の研究課題について，研究仮説を構築する。 第10回～第15回　研究方法の整理 　研究課題に係る研究方法を整理する。 第16回～第25回　検証・データ収集と分析・考察 　研究課題に関する検証，データ収集を行い，分析・考察する。 第26回～第29回　主張の構成 　検証，分析・考察の結果から，研究課題に対する主張を構成する。 第30回　まとめと今後の課題 　研究仮説，検証のまとめと今後の見通しを確認する。 （共同／全30回，指導教員・副指導教員で受講者ごとに担当）
	成績評価の方法	成績評価については，共同ネットワークラボの活動を４コマ（８時間）以上行っていることを前提に、以下の観点と方法により総合的に行う。 ・研究仮説と研究方法の構築（レポート，討議，30%） ・データ収集・検証と分析・考察（レポート，討議，40%） ・主張の構成（レポート，討議，30%）
	テキスト	毎回，必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	研究課題に合わせて，必要な参考書，資料等を提示する。
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	受講者の指導教員，副指導教員が中心となって演習を展開する。 積極的に共同ネットワークラボを活用し，研究交流を図る。

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教科学特別研究Ⅲ
	クラス	（受講生に応じて開設）
	担当教員	指導教員
	開講学期	通年
	開講時期	通年
	曜日・時限	
	科目区分	課題研究科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	共同
	授業概要	臨床教科学に係る学位論文作成に向けて，収集したデータや検証の分析・考察を通して，臨床的研究としての研究成果を明確化する。また，これまでの研究の取り組みを，研究の背景，研究仮説や研究方法の構築，データ分析や検証の結果と考察等の観点から，学術的な研究成果としてまとめる。必要に応じて，各自の研究の成果を共同ネットワークラボの活動を通して共有しながら研究成果のまとめを行う。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・「学校教育学」に関する臨床的研究の成果として，研究課題に対する主張をまとめることができる。 ・これまでの研究の取り組みを，学位論文としてまとめることができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス 第2回～第9回　研究課題に対する主張の構築 　受講者が各自の研究課題に対する結論としての主張を明確化する。 第10回～第18回　学位論文構成の検討 　各自の学位論文執筆のための論文構成を検討する。 第19回～第23回　学位論文としてのまとめ 　各自の学位論文の内容を検討し，研究成果としてまとめる。 第30回　まとめと今後の課題 　学位論文の作成を振り返り，今後の課題を明確化する。 （共同／全30回，指導教員・副指導教員で受講者ごとに担当）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・研究課題の明確化（レポート，討議，40%） ・先行研究の整理（レポート，討議，30%） ・研究方法の確立（レポート，討議，30%）
	テキスト	毎回，必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	研究課題に合わせて，必要な参考書，資料等を提示する。
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	受講者の指導教員，副指導教員が中心となって演習を展開する。 必要に応じて，共同ネットワークラボを活用した研究交流を実施する。

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	学校教育学原論Ⅰ
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎吉田　茂孝（大阪教育大学），姫野　完治（北海道教育大学），川前　あゆみ（北海道教育大学），橋本　健一（大阪教育大学），森　兼隆（大阪教育大学），坂井　清隆（福岡教育大学）
	開講学期	前期(1QT)
	開講時期	前期(1QT)
	曜日・時限	土曜・３限
	科目区分	共通科目
	単位区分	必修
	単位数	1
	備考	
講義情報	授業形態	講義
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのかについて整理する。まず，学校教育の課題について，内外の文献から整理する。そしてその解決を促す臨床的研究について，教育学，心理学，教科教育学からアプローチする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力
	授業の到達目標	学校教育の諸課題の整理ができ，その課題についての先行研究を内外の査読付き論文から得ることができる。そして，臨床的研究について，先行研究から，その意義及び特徴をまとめることができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　学校教育の諸課題の整理 諸外国との比較から考える（吉田） 第2回　学校教育の諸課題の整理 教科教育・学力の課題（初等教育）（坂井） 第3回　学校教育の諸課題の整理 教科教育・学力の課題（中等教育）（橋本） 第4回　学校教育の諸課題の整理 子どもの学習の課題（認知の観点から）（森） 第5回　学校教育の諸課題の整理 学校・地域・家庭の課題（川前） 第6回　学校教育の諸課題の整理 インクルーシブ教育の課題（吉田） 第7回　学校教育の諸課題の整理 教員養成の課題（姫野） 第8回　臨床的研究からみた学校教育の諸課題（全員）
	成績評価の方法	各授業における課題（50%），授業後のレポート（50%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	授業において必要な参考資料等を提示する
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	学校教育学原論Ⅱ
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎吉田　茂孝（大阪教育大学），半澤　礼之（北海道教育大学），杉本　任士（北海道教育大学），寺嶋浩介（大阪教育大学），橋本　健一（大阪教育大学），森　兼隆（大阪教育大学），川口　俊明（福岡教育大学）
	開講学期	前期(2QT)
	開講時期	前期(2QT)
	曜日・時限	土曜・３限
	科目区分	共通科目
	単位区分	必修
	単位数	1
	備考	
講義情報	授業形態	講義
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	学校教育学原論Ⅰで整理した学校教育の諸課題について，臨床的研究の視点から整理する。受講生の一人ひとりの研究テーマを掘り下げるために，内外の学術雑誌を読み込み，その領域に対する研究を概観し，臨床的研究への方向性を明確にする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力
	授業の到達目標	自身の研究テーマについての関連学問分野の課題を明らかにする。そして，その分野の研究成果を踏まえ，臨床的研究への具体的な理論的，方法論的枠組みを得る。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　学校教育学原論Ⅱの進め方及び，研究テーマの確認（全員） 第2回　教科教育，学力の課題についての国内外の研究・政策動向：学力調査の観点から（川口） 第3回　教科教育，学力の課題についての国内外の研究・政策動向：英語教育の観点から（橋本） 第4回　子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：行動分析学の観点から（杉本） 第5回　子どもの適応の課題についての国内外の研究・政策動向：教育心理学の観点から（半澤） 第6回　研究テーマの展望的な検討の方法（レビュー論文の書き方）（寺嶋） 第7回　特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向：教育方法学の観点から（吉田） 第8回　特別なニーズのある子どもの教育についての国内外の研究・政策動向：教育心理学の観点から（森）
	成績評価の方法	各授業における課題（50%），授業後のレポート（50%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	授業において必要な参考資料等を提示する
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教育臨床参画研究Ｉ
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎水野　治久（大阪教育大学），川前　あゆみ（北海道教育大学），木村　育恵（北海道教育大学），渡邉　創太（大阪教育大学），坂井　清隆（福岡教育大学）
	開講学期	後期(3QT)
	開講時期	後期(3QT)
	曜日・時限	（原則）土曜・３限（臨床的参画の実施日等は別途調整予定）
	科目区分	共通科目
	単位区分	必修
	単位数	1
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	研究フィールドとしての学校現場へ参画する。そのためにまずは研究倫理，アクション・リサーチについての理解を深める。その後，学校現場で，臨床的な課題を観察する。その上で，院生が，自身の研究課題との関連を明確化するとともに，課題研究の構想に役立てることをめざす。研究フィールドは，派遣の現職教員においては勤務校，その他の学生は附属学校を想定する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力
	授業の到達目標	臨床的研究を行う上で必要となる知識とスキル，特に研究倫理の知識を得る。その上で，学校現場の教育課題を把握し，成果報告を行うことを通して，自身の研究課題の種を拾う。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　学校教育の諸課題の整理とその課題にどのようにアプローチするのか（倫理的配慮，フィードドエントリー）（水野） 第2回　学校の課題に対する参画研究の実際（川前） 第3回　広義のアクション・リサーチの方法（渡邉・水野） 第4回　臨床的参画の計画の発表会（全員） 第5回　臨床的参画（院生を地域で分けて北教大を川前・木村，大教大を渡邉，水野，福教大を坂井が担当し，活動をモニターする） 第6回　臨床的参画（全員，北海道・大阪・福岡で実施） 第7回　臨床的参画（全員，北海道・大阪・福岡で実施） 第8回　学校現場での参与観察・介入（参画）の中間発表（全員）
	成績評価の方法	(1) 授業中の課題（50%） (2) 最終課題（50%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	有馬　道久・大久保　智生・岡田　涼・宮前　淳子　2020　学校に還す心理学　ナカニシヤ出版
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教育臨床参画研究Ⅱ
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	川前　あゆみ（北海道教育大学），木村　育恵（北海道教育大学），水野　治久（大阪教育大学），渡邉　創太（大阪教育大学），坂井　清隆（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	共通科目
	単位区分	必修
	単位数	1
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教育臨床参画研究Ⅰでの学校現場への参画を継続しながら，各自の研究課題を焦点化するとともに，臨床的研究としての研究構想を具体化する機会を設定する。そして，そのために，具体的に教育現場への参画研究を実施する。その研究成果をまとめる。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力
	授業の到達目標	教育臨床参画研究Ⅰにおける臨床的研究を踏まえ，学校現場の課題を解決する臨床的研究を更に展開するための知識・研究スキルを得る。参画研究で得られたデータを分析し，さらなる課題を明らかにする。参画を行い，その上で，Ⅰ，Ⅱで得られた実践的知見をまとめる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　教育臨床参画研究Ⅱの進行と教育臨床参画研究のシェアリング（水野） 第2回　参画研究で学校の課題の捉え方（川前） 第3回　臨床的な視点のシェアリングと教育臨床参画研究Ⅱにおける参画計画（渡邉・水野） 第4回　臨床的参画（院生を地域で分けて北教大を川前・木村，大教大を渡邉，水野，福教大を坂井が担当し，活動をモニターする） 第5回　臨床的参画（全員，北海道・大阪・福岡で実施） 第6回　臨床的参画（全員，北海道・大阪・福岡で実施） 第7回　ジェンダー視点に基づく分析者のキャリア形成と臨床的参画研究　（木村） 第8回　学校現場での臨床的参画研究のまとめの発表会（全員）
	成績評価の方法	各授業における課題（50%），授業後のレポート（50%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	箕浦　康子　1999　フィールドワークの技法と実際：マイクロ・エスノグラフィー入門　ミネルヴァ書房
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教員養成学開発論
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	姫野　完治（北海道教育大学），小林　淳一（北海道教育大学），八田　幸恵（大阪教育大学），峯　明秀（大阪教育大学），兼安　章子（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	共通科目
	単位区分	必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	講義
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式
	授業概要	教員養成への目的意識を向上させ，教員養成における今日的課題を理解するとともに，次世代における教員養成のあり方を探究する。教師教育，教員養成に関する学術的な知見を得ることによって，教員養成学を開発する基盤を構築する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力
	授業の到達目標	教員養成の理論や制度，教育実習の現状と課題など，教員養成学開発に必要な理論について理解する。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　日本の教員養成制度の歴史的展開（八田） 第2回　教員養成の論点（八田） 第3回　教師像の歴史的展開（小林） 第4回　地域社会ニーズと子どものニーズを踏まえた新しい教師像の開発（小林） 第5回　中等教員養成カリキュラムの構成原理（峯） 第6回　初等教員養成カリキュラムの構成原理（峯） 第7回　教職科目・教科専門・教科教育法の有機的連関（峯） 第8回　教育の実践（体験）と理論（研究）の統合（姫野） 第9回　成人の発達と教師の発達（姫野） 第10回 専門職の学習と教師の学習（姫野） 第11回 効果的な教育実習の時期・内容・形態（兼安） 第12回 大学院における教員養成・現職教育のあり方（兼安） 第13回 教員養成カリキュラムの効果検証（兼安） 第14回 教員養成学部教員に必要な資質とその開発（小林） 第15回 教員養成と臨床的研究（八田）
	成績評価の方法	レポート・討議（20%），レポート・討議（20%），レポート・討議（20%），レポート・討議（20%），レポート・討議（20%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	今津　孝次郎『教師が育つ条件』岩波新書，2012年 TEES研究会 『大学における教員養成の歴史的研究』学文社，2001年
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教員養成学臨床研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	小林　淳一（北海道教育大学），八田　幸恵（大阪教育大学），峯　明秀（大阪教育大学），兼安　章子（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	
	科目区分	共通科目
	単位区分	必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	大学教員のTA等を通して，教育学部・教職大学院等の学生に対する「教職課程コアカリキュラム」に係る科目の指導等を経験し，教員養成大学の教員の専門性のあり方について学ぶ機会とする。現職教員の場合は学校現場や教育委員会で教員志望の学生を受け入れている場面でのTAを体験する。また，自らの課題研究の成果の教員養成や教員研修への活用を考察することを通して，各自の課題研究の，教員養成学を内包する学校教育学としての位置付けを明確化させる。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP1：学校教育が抱える諸課題に対応し得る能力 DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力
	授業の到達目標	大学教員のTAおよび学部学生・教職大学院院生に対するチュートリアルを通し，教員養成大学の教員の役割を理解する。また，各自の課題研究における，教員養成学を内包する学校教育学としての位置付けを明確化する。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　授業の進め方　教員養成学への臨床的アプローチ（全員） 第2回　各地域でのガイダンス　研究課題と教員養成場面への参画の調整（各大学） 第3回　①教員養成場面へのTA（指導）体験（各大学） 第4回　②教員養成場面へのTA（指導）体験（各大学） 第5回　③教員養成場面へのTA（指導）体験（各大学） 第6回　教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション　合同（峯） 第7回　教育養成場面の課題のまとめとTA体験のリフレクション　合同（八田） 第8回　各地域でのガイダンス　研究課題と教員養成場面への参画の調整（各大学） 第9回　④教員養成場面へのTA（指導）体験（各大学） 第10回　④教員養成場面へのTA（指導）体験（各大学） 第11回　⑤教員養成場面へのTA（指導）体験（各大学） 第12回　振り返りの発表に向けのガイダンス（各大学） 第13回　振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」（峯） 第14回　振り返りの発表「教員養成の課題と今後の展望」（八田） 第15回　教育養成場面の課題のまとめ（全員）
	成績評価の方法	(1) 授業中の課題（50%） (2) 最終課題（50%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	秋田　喜代美・藤江　康彦編著　2019　これからの質的研究法~15の事例にみる学校教育実践研究~　東京図書　森下　孟・青木　一　編著　2023　教師をめざす人のための臨床経験の理論と実践ー「臨床の知」が拓く教員養成課程　北大路書房
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	地域教育課題研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎吉田　茂孝（大阪教育大学），川前　あゆみ（北海道教育大学），高橋　登（大阪教育大学），一木　薫（福岡教育大学），見上　昌睦（福岡教育大学），山田　洋平（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	土曜・４限
	科目区分	分野コア科目
	単位区分	必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	北海道，大阪，福岡における学校現場の地域課題について，量的・質的データをもとに把握し，その課題解決についてアクション・リサーチを行う。課題については，北海道の「へき地・小規模校教育」，大阪の「ダイバーシティ教育（外国につながりのある子どもの教育・インクルーシブ教育等）」，福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の視点から各地域を理解し，課題にアプローチする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	北海道，大阪，福岡における学校現場の地域課題の視点から，課題へのアプローチすることを通して，多角的なアクション・リサーチについて，内容論的側面からの知識・スキルを得る。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　授業の進め方，受講生の問題意識の確認，臨床的研究の概念の確認（全員） 第2回　北海道の「へき地・小規模校教育」の臨床的課題(1)（川前） 第3回　北海道の「へき地・小規模校教育」の臨床的課題(2)（川前） 第4回　北海道の「へき地・小規模校教育」の研究成果のレビュー(1)（川前） 第5回　北海道の「へき地・小規模校教育」の研究成果のレビュー(2)（川前） 第6回　大阪の「ダイバーシティ教育（外国につながりのある子どもの教育・インクルーシブ教育等）」の臨床的課題(1)（高橋・吉田） 第7回　大阪の「ダイバーシティ教育（外国につながりのある子どもの教育・インクルーシブ教育等）」の臨床的課題(2)（高橋・吉田） 第8回　大阪の「ダイバーシティ教育（外国につながりのある子どもの教育・インクルーシブ教育等）」の研究成果のレビュー(1)（吉田・高橋） 第9回　大阪の「ダイバーシティ教育（外国につながりのある子どもの教育・インクルーシブ教育等）」の研究成果のレビュー(2)（吉田・高橋） 第10回　福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の臨床的課題(1)（一木・見上） 第11回　福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の臨床的課題(2)（見上・一木） 第12回　福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の研究成果のレビュー(1)（見上・一木） 第13回　福岡の「特別支援教育・学校適応支援」の研究成果のレビュー(2)（山田） 第14回　各自の研究テーマから見た地域課題(1)（全員） 第15回　各自の研究テーマから見た地域課題(2)（全員）
	成績評価の方法	各授業における課題（50%），授業後のレポート（50%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	人間発達理解研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎渡邉　創太（大阪教育大学），水野 君平（北海道教育大学），森　兼隆（大阪教育大学），西山　久子（福岡教育大学），相澤　宏充（福岡教育大学），　山田　洋平（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	木曜・７限（一部集中あり）
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式
	授業概要	人間理解，発達理解のため心理学や障がい科学分野で膨大な蓄積があるが，本授業では，人間の発達，学習活動，社会性，対人関係についての把握の方法論（広義のアセスメント）および研究の動向をレビューすることで，院生はこれらの研究領域における方法論および知見についての最新の情報を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	院生は，人間発達理解の方法についての最新の研究成果を踏まえた知識と技法を習得する。さらに，得られた情報を院生自身の学校適応についての基礎的理解と有機的に結びつけた上で，自身の臨床的研究テーマに対する理解と創造的思考を促進させる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　人間発達理解研究の進め方と「人間発達の理解」の理解（渡邉） 第2回　人間発達の理解のための方法論（渡邉） 第3回　人間発達の理解についての研究の動向（渡邉） 第4回　子どもの学習活動の理解（森） 第5回　子どもの学習活動のつまづきと理解（森） 第6回　子どもの発達を理解した学習支援の研究（森） 第7回　障がいのある子どもの発達の理解①子どもの見立て（相澤） 第8回　障がいのある子どもの発達の理解②他者との関係性（相澤） 第9回　障がいのある子どもの発達の理解③観察法（相澤） 第10回　子どもの学校適応の理解とアセスメント（西山） 第11回　子どもの対人関係の発達の理解とアセスメント（西山） 第12回　子どもの発達の理解の学校での支援（山田） 第13回　子どもの発達とパーソナリティ（水野） 第14回　子どもの発達と社会的認知（水野） 第15回　子どもの発達と問題行動（水野） 各回，当該回のテーマについて事前学習をしておくこと。
	成績評価の方法	各授業における課題（50%），各授業への積極的参加（50%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を指示・配布する
	参考書・参考資料等	臨床心理学スタンダードテキスト（金剛出版，2023，ISBN:978-4772419161），キャリア教育がわかる：実践をデザインするための〈基礎・基本〉(誠信書房, 2023, ISBN: 978-4414202236)，教育心理学(ミネルヴァ書房, 2019, ISBN：978-4623081875)，臨床心理アセスメントの基礎第2版（ナカニシヤ出版，2020，ISBN:978-4779514920）
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	人間発達支援研究Ⅰ
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎水野　治久（大阪教育大学），片桐　正敏（北海道教育大学），西山　久子（福岡教育大学），見上昌睦（福岡教育大学），山田　洋平（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	火曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	子どもの発達支援を，個別支援，クラスワイド，スクールワイドの観点から検討する。国内外の研究を概観する。子どもの人間関係の広がりを意識したグループアプローチによる支援を検討する。インクルーシブ教育の観点から，学級における特別なニーズを有する子どもにも焦点をあてる。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	子どもの支援を発達という観点から概観できるようになる。国内外の研究成果を踏まえ，どのように子どもの発達を視点するかについて理解ができるようになる。また，発達の支援の実際にも，研究的視点，臨床的視点から概観できる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　人間発達支援研究Ⅰの進め方と人間発達の理解（水野） 第2回　人間発達支援研究における心理教育的援助サービスの展開（水野） 第3回　心理教育的援助サービスの支援の実際と効果測定（水野） 第4回　スクールワイドの発達の支援の実際（山田） 第5回　クラスワイドの発達の支援の方法（西山） 第6回　予防的プログラムの展開と発達の支援（西山） 第7回　通常学級の人間発達の理解　（LD，ADHDの視点から）（片桐） 第8回　通常学級の人間発達の理解　（ASDの視点から）（片桐） 第9回　通常学級の人間発達の理解　（ギフテッドの視点から）（片桐） 第10回　特別支援学級から見た人間発達（見上） 第11回　特別支援学校から見た人間発達（幼児期・児童期）（見上） 第12回　特別支援学校から見た人間発達（青年期）（見上） 第13回　院生の発表（各自のテーマを発達支援の視点から捉え直す）①（全員） 第14回　院生の発表（各自のテーマを発達支援の視点から捉え直す）②（全員） 第15回　院生の発表（各自のテーマを発達支援の視点から捉え直す）③（全員）
	成績評価の方法	授業における発表（50%），各授業ごとのレポート課題（50%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	水野　治久・家近　早苗・石隈　利紀　2018　チーム学校での効果的な援助―学校心理学の最前線―　ナカニシヤ出版　西山　久子・渡辺　弥生　2018　必携:生徒指導と教育相談（生徒理解，キャリア教育，そして学校危機予防まで）　北大路書房
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	人間発達支援研究Ⅱ
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	齋藤　暢一朗（北海道教育大学），小松　孝至（大阪教育大学），高橋　登（大阪教育大学），西山　久子（福岡教育大学），相澤　宏充（福岡教育大学），山田　洋平（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	子どもの発達支援について，言語と社会性の発達の理解をふまえ，学校適応支援，特別支援教育の観点から検討する。その後，虐待などのトラウマ体験からの回復について検討する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	この授業を受けることで，院生は，子どもの言語と社会性の発達と，発達をふまえた支援の在り方を理解する。また，同時に，障がいのある子どもの発達と支援についての理解も深める。人間発達理解Ⅰ，Ⅱの集大成として，子どもの発達の理解と支援について発表を行い，臨床的研究につなげていく。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　人間発達支援研究Ⅱの進め方・発達をふまえた支援の在り方（高橋） 第2回　子どもの言語の発達のメカニズム（高橋） 第3回　子どもの言語発達のアセスメントと支援（高橋） 第4回　子どもの社会性の発達（小松） 第5回　子どもの社会性の発達の理解と支援（小松） 第6回　子どもの臨床的な理解（齋藤） 第7回　子どもの臨床的な理解と支援（齋藤） 第8回　障がいとともに生きる子どもの理解（相澤） 第9回　障がいの理解と支援（相澤） 第10回　様々な発達段階の子どもに対する心理支援（西山） 第11回　様々な発達段階の子どもに対する生徒指導（西山） 第12回　発達段階を考慮した予防的プログラム（山田） 第13回　発達支援の実際についての各院生からの発表①（全員） 第14回　発達支援の実際についての各院生からの発表②（全員） 第15回　発達支援の実際についての各院生からの発表③（全員）
	成績評価の方法	毎回の授業の参加状況とミニレポート（50%），発表（30%），最終レポート（20%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	言語発達とその支援 (講座・臨床発達心理学)（ミネルヴァ書房），社会・文化に生きる人間（発達科学ハンドブック５）（新曜社）
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	学習認知研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	渡邉　創太（大阪教育大学），森　兼隆（大阪教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	認知科学の理論から，学習者の学習活動について理解を深め，個別最適化の学習視点への応用を模索する。学習理論や動機づけ理論など種々の理論に立ち返りながら，どのような関わり方が子どもの学習を促進するかといった実践との往還から，理論のより深い理解と実践の展開の促進を図る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	この授業を受けることで，学習活動に関連する認知科学の主要な理論について理解を深め，その理論枠組みを用いて学習活動およびその関連の認知プロセスについて理解を得ることができる。その上で，具体的にどのような学習活動・学習支援を諮るのが望ましいのか，理論と知見に基づき検討・考案ができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　オリエンテーション・イントロダクション（渡邉） 第2回　知識獲得の認知メカニズム1（森） 第3回　知識獲得の認知メカニズム2（森） 第4回　知識活用に関わる理論（森） 第5回　ワーキングメモリ理論と教育（森） 第6回　ワーキングメモリ理論と教科学習（森） 第7回　実行機能と行動の制御1（森） 第8回　実行機能と行動の制御2（森） 第9回　学習理論1（渡邉） 第10回　学習理論2（渡邉） 第11回　モチベーション理論1（渡邉） 第12回　モチベーション理論2（渡邉） 第13回　メタ認知1（渡邉） 第14回　メタ認知2（渡邉） 第15回　まとめ（渡邉・森）
	成績評価の方法	第1-14回各授業における課題（45%），第1-14回各授業への積極的参加（45%），第15回まとめの課題（10%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を指定・配布する
	参考書・参考資料等	学習心理学（シリーズ心理学と仕事 4）　中條　和光（著, 編集）北大路書房　2019　ISBN:978-4762830488，「深い学び」の科学: 精緻化・メタ認知・主体的な学び　北尾　倫彦　図書文化社　2020　ISBN: 978-4810097450，理論に基づいた「学習」を目指して… 教室の中のワーキングメモリ　弱さのある子に配慮した支援　河村　暁　明治図書出版　2021　ISBN:978-4183498151
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	キャリア支援研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	半澤　礼之（北海道教育大学），西山　久子（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	子どものキャリア発達の理解，そしてその支援について検討する。とくに，キャリア教育の現状と課題について言及する。加えて内外の教師のキャリア発達の支援についても，検討していく。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	この授業をとおして受講生は，発達心理学，学校心理学に基づくキャリア発達の枠組みを理解する。そして，国内外の実践研究，理論研究の行動を踏まえ，子どものキャリア発達及び教員のキャリア発達の理解を得る。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　子どものキャリア発達の諸相（発達心理学的側面）（半澤） 第2回　子どものキャリア発達の諸相（発達心理学的側面）（半澤） 第3回　子どものキャリア発達の諸相（学校心理学的側面）（西山） 第4回　子どものキャリア発達の諸相（学校心理学的側面）（西山） 第5回　キャリア発達研究の内外の動向（文献研究から）（半澤） 第6回　キャリア発達研究の内外の動向（文献研究から）（半澤） 第7回　キャリア教育の動向（半澤） 第8回　キャリア教育の動向（半澤） 第9回　教員養成のキャリア支援の動向と課題（半澤・西山） 第10回　キャリア教育の動向（西山） 第11回　キャリア教育の動向（西山） 第12回　教師のキャリア支援（西山） 第13回　教員のキャリア発達と教員養成（半澤） 第14回　教員のキャリア発達と教員養成（半澤） 第15回　教員のキャリア発達と教員養成（半澤・西山）
	成績評価の方法	課題レポート（55%），授業リフレクション各回3点×15（45%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	キャリア教育がわかる：実践をデザインするための〈基礎・基本〉（誠信書房, 2023,ISBN: 978-4414202236） キャリア・コンストラクション ワークブック：不確かな時代を生き抜くためのキャリア心理学（金子書房，2013, ISBN:978-4760823826） 新版 キャリア教育概説（東洋館出版社, 2020, ISBN:978-4491042640） キャリア教育基礎論（実業之日本社, 2014, ISBN:978-4408416694）
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教育方法学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎吉田　茂孝（大阪教育大学），小林　淳一（北海道教育大学），八田　幸恵（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	集中
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式
	授業概要	カリキュラム，授業，生活指導を開発する諸理論の布置を描いた上で，カリキュラム，授業，生活指導をめぐる教育改革の国際的動向について概観する。その上で，日本の教育方法実践史を取り上げ，日本に特徴的な子どもの生活現実やニーズからカリキュラム，授業，生活指導をつくる実践のあり方の現代的意義を検討する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	教育方法を取り巻く諸理論を国際的な動向をふまえて把握したうえで，教育方法実践史と子どもの生活現実やニーズから実践について理解を深める。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　教育方法学研究の構図（世界的な動向をふまえて）（八田） 第2回　諸外国の教育方法学研究(1)―ヨーロッパの研究動向（吉田） 第3回　諸外国の教育方法学研究(2)―米国・英国の研究動向（八田） 第4回　教育改革の国際的動向(1)―教育課程・カリキュラム研究（八田） 第5回　教育改革の国際的動向(2)―学力・評価の研究動向（八田） 第6回　教育改革の国際的動向(3)―授業研究（吉田） 第7回　教育改革の国際的動向(4)―インクルーシブ教育の研究動向（吉田） 第8回　戦後日本の教育方法論の史的展開(1)―カリキュラムを中心に（八田） 第9回　戦後日本の教育方法論の史的展開(2)―授業を中心に（吉田） 第10回　戦後日本の教育方法論の史的展開(3)―生活指導を中心に（吉田） 第11回　日本の教育改革の動向と教育方法学研究（小林） 第12回　子どもの生活現実と教育実践(1)―地域に根ざす教育と子どもによる地域探究（小林） 第13回　子どもの生活現実と教育実践(2)―持続可能な社会をつくる子どもたち（小林） 第14回　子どもの生活現実と教育実践(3)―メディア革新と子どもたちによる表現（小林） 第15回　現代的課題と教育方法学（小林）
	成績評価の方法	(1) 授業中の課題（50%） (2) 最終課題（50%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	・日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社，2014年 ・田中　耕治編著『戦後日本教育方法論史（上）（下）』ミネルヴァ書房，2017年
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教育DX研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	寺嶋　浩介（大阪教育大学），三島　和宏（大阪教育大学），鈴木　剛（大阪教育大学），安松　健（大阪教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教育におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）について，それが何を指し，教育のどういった分野で進展する可能性があるのか，社会的な背景や政策をもとに議論をする。特に「遠隔・オンライン教育（対面とのブレンド含む）」「先進テクノロジの活用」「AI・データ駆動型教育」について，研究動向を解説するとともに，今後の研究可能性について検討する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・教育DXは，教育のどういった分野で進展する可能性があるのかについて自身の言葉で説明することができる。 ・「遠隔・オンライン教育（対面とのブレンド含む）」「先進テクノロジの活用」「AI・データ駆動型教育」について，現在の研究動向とその課題について説明することができる。 ・教育DX研究について，自身で特定のトピックに関して，先行研究に基づいて，研究計画を組み立てることができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　オリエンテーションおよび各研究トピックの概要紹介 （全員） 第2回　教育DXの社会的背景，国内外での事例や全体的な動向 （全員） 第3回　「遠隔・オンライン教育（対面とのブレンド含む）」(1) これまでの研究動向 （寺嶋） 第4回　「遠隔・オンライン教育（対面とのブレンド含む）」(2) 現在の研究テーマ （寺嶋） 第5回　「遠隔・オンライン教育（対面とのブレンド含む）」(3) 今後の研究テーマに関する検討 （寺嶋） 第6回　「先進テクノロジの活用」(1) これまでの研究動向 （三島） 第7回　「先進テクノロジの活用」(2) 現在の研究テーマ （三島） 第8回　「先進テクノロジの活用」(3) 今後の研究テーマに関する検討 （三島） 第9回　「AI・データ駆動型教育」(1) これまでの研究動向 （鈴木・安松） 第10回　「AI・データ駆動型教育」(2) 現在の研究テーマ （鈴木・安松） 第11回　「AI・データ駆動型教育」(3) 今後の研究テーマに関する検討 （鈴木・安松） 第12回　3つの研究トピックの振り返りと研究計画の検討 （全員） 第13回　研究計画の立案と改善 （各トピック担当教員） 第14回　受講生による研究計画のプレゼンテーション(1) （全員） 第15回　受講生による研究計画のプレゼンテーション(2)・講義の振り返り （全員）
	成績評価の方法	各回授業におけるコメント（50%），研究計画のプレゼンテーション（50%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	OECD教育DX白書（明石書店）
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	特別支援教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	片桐　正敏（北海道教育大学），平賀　健太郎（大阪教育大学），大内田　裕（大阪教育大学），見上昌睦（福岡教育大学），一木　薫（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式
	授業概要	特別支援教育の基本的な理念や制度について押さえた後，特別支援教育の対象となる代表的な障がいに関する基礎から応用までの包括的な内容，代表的な研究テーマや手法，現代的なトピックについて解説する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	この授業を通じて，受講生は特別支援教育に関する理念や制度的動向を把握することができる。また，教育実践に関連する障害ごとの教育方法，実態把握，生理・病理といった総合的な知識を深めることができる。さらに，国内外の最新の研究を通じて，教育現場における実践的な課題について理解できる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　特別支援教育の理念及び制度の基本（一木） 第2回　肢体不自由教育の対象となる子どもの総合的理解（一木） 第3回　肢体不自由教育に関する研究動向と最新トピック（一木） 第4回　自閉スペクトラム症の総合的理解（片桐） 第5回　自閉スペクトラム症に関する研究内容や手法（片桐） 第6回　自閉スペクトラム症及び関連する諸問題における最新トピック（片桐） 第7回　病弱教育の対象となる子どもの総合的理解（平賀） 第8回　病弱教育の対象となる子どもに関する研究手法（平賀） 第9回　病弱教育における最新トピック（平賀） 第10回　言語障害教育の対象となる子どもの総合的理解（見上） 第11回　言語障害教育の対象となる子どもに関する研究内容や手法（見上） 第12回　言語障害教育における最新トピック（見上） 第13回　各種障害の運動障害の総合的理解（大内田） 第14回　各種障害の運動障害に関する研究内容や手法（大内田） 第15回　各種障害の運動障害における最新トピック（大内田）
	成績評価の方法	各授業における課題（50%），最終レポート（50%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	特別支援教育の基礎・基本 2020 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 (著)
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	学校安全研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	豊沢　純子（大阪教育大学），後藤　健介（大阪教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	国の学校安全の考え方について確認した後に，学校安全の考え方とその促進方法について議論する。特に子どもの発達段階を考慮した学校安全の基本的な考え方とその最新の実践及び効果測定について論じる。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	学校安全と危機管理についての基本的事項を理解する。 セーフティ・プロモーション・スクールの考え方と実践事例を理解する。 発達段階に応じた安全教育の実践と効果測定ができるようになる。 学術的観点から学校安全にかかわる過去の事件・事故事例を分析し，今後の学校安全の実践に役立てることができる。 様々なデータ分析法の応用力を養うことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（豊沢・後藤） 第2回　学校安全と危機管理の基礎（豊沢） 第3回　子どもの発達段階を踏まえた安全教育（豊沢） 第4回　安全教育の効果測定の方法（豊沢） 第5回　安全教育の学習指導案の作成と考察（豊沢） 第6回　リスクに対する心のバイアス（豊沢） 第7回　リスクに対する集団心理（豊沢） 第8回　学術的観点からの過去の事件・事故事例の分析（豊沢） 第9回　環境教育と安全教育（後藤） 第10回　安全を研究する①生活安全（後藤） 第11回　安全を研究する②災害安全（後藤） 第12回　安全を研究する③交通安全（後藤） 第13回　フィールドワークの実際（後藤） 第14回　様々なデータ分析法の応用（時系列解析から空間解析まで）（後藤） 第15回　学校安全推進のためのセーフティプロモーションスクール（SPS）（後藤）
	成績評価の方法	各回のコミュニケーションカードおよび課題成果物の内容（80%），授業のディスカッションへの積極性（20%）で評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	文部科学省（2019）「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育　東京書籍，豊沢　純子・元吉　忠寛・竹橋　洋毅・野田　理世（2019）危険予測と対処行動を学ぶ防災教育の効果－小学校低学年に対する実践から－　教育心理学研究, 67, 54-67，小山　健蔵・藤田　大輔・白石　龍生・大道　乃里江（2014）「教師のための学校安全」学研教育みらい
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	学校コミュニティ支援研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎寺坂　明子（大阪教育大学），杉本　任士（北海道教育大学），豊沢　純子（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	水曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式
	授業概要	学校コミュニティ支援に関する各テーマについて，国内外の文献を講読して議論をおこない，学校コミュニティの改善が子どものウェルビーイングにどのように影響するのか検討する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	学校コミュニティ支援のあり方について理解する。コミュニティづくりと維持が，子どもの適応，ウエルビーングにどのような影響を与えるのかについて，内外の先行研究を整理し，検討することができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス，学校コミュニティ支援の考え方（寺坂） 第2回　子どもと子どもを取り巻く環境との関係（寺坂） 第3回　学校コミュニティ支援の方法と展開（寺坂） 第4回　エビデンスに基づく教育アプローチとプログラム評価の方法（寺坂） 第5回　1～4回のまとめ，受講生によるプレゼンテーション（寺坂） 第6回　学校コミュニティにおける安全の考え方（豊沢） 第7回　学校コミュニティにおける安全教育の展開（豊沢） 第8回　安全教育の担い手としての学部生へのアプローチ（豊沢） 第9回　ポジティブ心理学と安全教育（豊沢） 第10回　6～9回のまとめ，受講生によるプレゼンテーション（豊沢） 第11回　行動分析学を用いた学年・学級コミュニティの改善（杉本） 第12回　学校コミュニティにおけるポジティブ行動支援（杉本） 第13回　地域コミュニティにおける生徒指導体制の構築（杉本） 第14回　学校コミュニティにおける心理的安全性とウェルビーイング（杉本） 第15回　11～14回のまとめ，受講生によるプレゼンテーション（杉本）
	成績評価の方法	各回の課題（60%），各回のリフレクション（40%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	Crone, D. A., Hawken, L. S., & Horner, R. H. (2015). Building positive behavior support systems in schools: Functional behavioral assessment. guilford Publications. Osher, D., Guarino, K., Jones, W., & Schanfield, M. (2021). Trauma-sensitive schools and social and emotional learning: An integration. The Pennsylvania State University.
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教育データサイエンス研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎庭山　和貴（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	火曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	
	授業概要	学校現場の課題解決に資するデータ分析やその活用について，研究倫理を遵守しながらどのように行うのか解説する。臨床的な研究のためにどのようなデータが活用できるのか，どのようなアウトカムが学校現場の諸課題を解決するのに役立つのか，演習形式で検討する。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	学校教育におけるデータ分析とその活用における現状の課題点を理解した上で，学校の課題解決に資するデータ分析を行い，さらにデータに基づく意思決定を行うことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　オリエンテーション：学校現場におけるデータ活用の現状と課題 第2回　学校現場におけるデータに基づく意思決定 第3回　教職員の行動変容を促すツールとしてのデータ 第4回　学校現場におけるデータ活用の実践例としての多層支援システム（MTSS） 第5回　生徒指導に関するデータ(1)：問題行動データの分析・活用 第6回　生徒指導に関するデータ(2)：遅刻・欠席データの分析・活用 第7回　生徒指導に関するデータ(3)：個別支援における行動データの測定と活用 第8回　生徒指導に関するデータ(4)：子どもの心理面に関するアンケートの分析・活用 第9回　学習指導に関するデータ(1)：既存の学力調査・テストの分析・活用 第10回　学習指導に関するデータ(2)：カリキュラムに基づく尺度（CBM）の開発 第11回　学習指導に関するデータ(3)：カリキュラムに基づく尺度（CBM）の活用 第12回　学習指導に関するデータ(4)：学習困難のアセスメントに役立つデータ 第13回　教職員に関するデータとその活用 第14回　実行度データの測定・分析と活用 第15回　まとめ：学校現場の課題解決のためのデータ分析・活用とその普及
	成績評価の方法	(1) 授業中の小課題（50%） (2) 最終レポート（50%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	向後　千春・冨永　敦子 (著)　統計学がわかる　技術評論社　2007年 小宮　あすか・布井　雅人 (著)　Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける　講談社　2018年
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	教員キャリア・研修マネジメント研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	姫野　完治（北海道教育大学），田中　真秀（大阪教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教員が①自身のキャリア，②管理職やミドルリーダーとして若手教員のキャリア形成に関与，教員研修をマネジメントできる人材の育成を目指すために，量的・質的データをもとに現状の課題を把握し，その課題解決についてアクション・リサーチを行う。最終的には理論と経験に基づいた新たな研修システムを提案できるようにする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	教員としてのキャリア形成ができることに加え，学校教員のキャリアを支援する教育委員会（センター）の研修をマネジメントできる人材となるために，課題へのアプローチすることを通して，多角的なアクション・リサーチについて，多角的な視点からの知識・スキルを得る。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　授業の進め方，受講生の問題意識の確認，臨床的研究の概念の確認（田中・姫野） ＜「教員キャリア」の視点へのアプローチ＞ 第2回　学校役割領域と教師―教師の成長・発達の課題（姫野・田中） 第3回　教員に対する社会的ニーズ（待遇）教員の置かれている状況からの臨床的研究-国内外の視点（田中・姫野） 第4回　「教員キャリア」とは何かー教師のライフヒストリーの視点から（姫野・田中） 第5回　社会の要請・未来を見据えた教員の資質・能力―コンピテンシー・コンピテンス・リテラシー（田中・姫野） ＜教員育成：研修の体系化に向けた多角的な学問の視点＞ 第6回　教師の成長を促す学校マネジメント（経営力・管理力）（田中・姫野） 第7回　変化の時代に対応した子どもを育成する教員の育成―教員評価の構築―（田中） 第8回　「教員研修」の臨床的課題ーLesson Study研究のレビューと課題（姫野・田中） 第9回　教員育成に関する行政学・経営学・社会学的アプローチ（田中） 第10回　教員育成に関する教育工学的アプローチ（姫野） 第11回　教員のスタンダード化と教師教育（姫野・田中） ＜未来を見据えた教員研修制度の提案＞ 第12回　教師教育者の役割と質保証（姫野・田中） 第13回　「教員育成指標」の発展的課題と研究成果のレビュー（田中・姫野） 第14回　研修マネジメントの臨床的課題―研修実施の経営力・企画力・実行力の育成（田中・姫野） 第15回　まとめ　多様な状況における教員研修体形システムの提案（田中・姫野）
	成績評価の方法	各授業における課題（レポートまたはワーク）（50%），「教員研修システム」の提案内容とそれを振り返る最終レポート（50%）を総合的に評価する。
	テキスト	各回において必要な資料を配布する。 特に，中央教育審議会答申，教育委員会（大阪府・北海道・福岡県等）の資料等を使用する。
	参考書・参考資料等	
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床国語科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎幸坂　健太郎（北海道教育大学），青山　之典（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	金曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	国語科教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，臨床国語科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・国語科教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床国語科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（幸坂・青山） 第2回　国語科教育学の研究動向1（臨床国語教育の必要性）（青山） 第3回　国語科教育学の研究動向2（臨床国語教育の理論的基盤）（青山） 第4回　国語科教育学の研究動向3（臨床国語教育の目的とアプローチの種類）（青山） 第5回　国語科教育学の研究動向4（実践者が行う臨床国語教育）（青山） 第6回　国語科教育学の研究動向5（研究者が行う臨床国語教育）（幸坂） 第7回　国語科教育学の研究動向6（臨床国語教育の倫理）（幸坂） 第8回　国語科教育学の研究方法1（データの収集・分析方法）（幸坂） 第9回　国語科教育学の研究方法2（学会発表・論文執筆の方法）（幸坂） 第10回～第14回　研究構想の紹介と焦点化（幸坂・青山） 　受講者が各自の研究構想を焦点化するとともに，前半の講義における先進的な研究動向や研究方法に照らして議論を行い，研究課題の焦点化を図る。 第15回　講義のまとめ（幸坂・青山）
	成績評価の方法	以下の評価材料・割合に基づき，到達目標が達成されたかどうかを判断する。 ・第10～14回における討議への取組姿勢　20% ・第10～14回における演習発表の内容　60% ・第15回の講義まとめにおける自己評価　20%
	テキスト	難波　博孝『臨床国語教育を学ぶ人のために』世界思想社，2007年
	参考書・参考資料等	全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ』溪水社，2022年
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床国語科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	青山　之典（福岡教育大学），大橋　賢一（北海道教育大学），幸坂　健太郎（北海道教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床国語科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・国語科教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床国語科教育研究における教材開発の理論的枠組みを検討することができる。 ・教材開発演習を通して，教科教育学的視点，教科内容学的視点の双方から，開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（大橋・幸坂・青山） 第2回　国語科教育学研究における教材開発の位置付け（青山・幸坂） 第3回　国語科内容学研究における教材開発の位置付け（大橋） 第4回　事例研究1（説明的文章を読むことにおける教材開発事例）（青山） 第5回　事例研究2（論理的思考力育成における教材開発事例）（幸坂） 第6回　事例研究3（言語事項の指導における教材開発事例）（大橋） 第7回　事例研究4（古典を読むことにおける教材開発事例）（大橋） 第8回～第13回　国語科教育における教材開発演習（大橋・幸坂・青山） 　受講者が各自の研究研究課題に応じて教材開発を行い，開発した教材を発表して共有するとともに，議論を通して授業化の可能性を検討する。 第14回　教材開発における教科教育学，教科内容学の視点（大橋・幸坂・青山） 第15回　講義のまとめ（大橋・幸坂・青山）
	成績評価の方法	以下の評価材料・割合に基づき，到達目標が達成されたかどうかを判断する。 ・第8～13回における討議への取組姿勢　20% ・第8～13回における演習発表の内容　60% ・第15回の講義まとめにおける自己評価　20%
	テキスト	各回において必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	森田　信義『認識主体を育てる説明的文章の指導』溪水社，1984年／難波　博孝『母語教育という思想』世界思想社，2008年／『常用漢字表の字体・字形に関する指針: 文化審議会国語分科会報告(平成28年2月29日)』三省堂，2016年／浜本　純逸監修『中学校・高等学校 漢文の学習指導』溪水社，2017年／早稲田大学教育総合研究所監『高校古典における古文・漢文の融合的な学びを考える』学文社，2020年／全国大学国語教育学会編『国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ』溪水社，2022年
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床国語科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎大橋　賢一（北海道教育大学），青山　之典（福岡教育大学），幸坂　健太郎（北海道教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	月曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	国語科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また，個別の専門分野の視点から臨床国語科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・国語科内容学の研究枠組みについて，国語科教育学の視点との融合を視野に入れた検討ができる。 ・個別の専門分野の視点からの国語科内容学研究について，先進的な研究知見を習得する。 ・個別の専門分野の視点から，臨床国語科内容学研究の枠組みについて検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（全員） 第2回　国語科内容学研究の位置付け（全員） 第3回　国語科内容学の検討1（古典教育における漢文学教材の概要）（大橋） 第4回　国語科内容学の検討2（古典教育における漢文学　儒家の思想）（大橋） 第5回　国語科内容学の検討3（古典教育における漢文学　諸子の思想）（大橋） 第6回　国語科内容学の検討4（古典教育における漢文学　通史）（大橋） 第7回　国語科内容学の検討5（古典教育における漢文学　断代史）（大橋） 第8回　国語科内容学の検討6（古典教育における漢文学　韻文）（大橋） 第9回　国語科内容学の検討7（古典教育における漢文学　散文）（大橋） 第10回　国語科内容学の検討8（古典教育における和漢比較　思想）（大橋） 第11回　国語科内容学の検討9（古典教育における和漢比較　史伝）（大橋） 第12回　国語科内容学の検討10（古典教育における和漢比較　文芸）（大橋） 第13回　国語科内容学の検討11（国語科教育における漢文学の役割）（大橋） 第14回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論（全員） 第15回　講義のまとめ（全員）
	成績評価の方法	・講義における討議の内容（20%） ・講義における発表（30%） ・学期末レポート（50%）
	テキスト	・各回において必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	鎌田　正『漢文教育の理論と指導』大修館書店，1972年／江連　隆『漢文教育の理論と実践』大修館書店，1984年／安藤　信廣『漢文を読む本』三省堂，1989年／田部井　文雄『漢文教育の諸相』大修館書店，2005年／浜本　純逸監修『中学校・高等学校 漢文の学習指導』渓水社，2017年／三上　英司『漢文名文選　故事成語編』筑摩書房，2019年
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床英語科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎笠原　究（北海道教育大学），橋本　健一（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	月曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	共同
	授業概要	英語科教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得する。特に臨床英語科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解するために，日本の英語教育や第二言語習得の最新文献を素材として講義・輪読を行う。また得られた知見を各自の研究課題にどのように生かすかの議論を行う。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・英語教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床英語科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（笠原・橋本） 第2・3回　英語科教育学の研究動向（講義・演習：笠原，橋本） 英語科教育学の最新の研究動向について，受講者の研究興味・関心を踏まえつつ，ディスカッションを行う。 第4回～第13回　英語科教育学研究の最先端（演習：笠原，橋本） 国内外の英語科教育学・第二言語習得研究の文献の輪読を通して，臨床英語科教育研究を実施していくにあたって必要な知見を得る。特に研究課題の設定や方法論に焦点を当てて，受講者自身の研究課題・方法論と照らし合わせつつ，それらをブラッシュアップしていくための議論を行う。 第14・15回　研究構想の紹介と焦点化（演習：笠原，橋本） 受講者が各自の研究構想を紹介するとともに，前半の講義における先進的な研究動向や研究方法に照らして議論を行い，研究課題の焦点化を図る。
	成績評価の方法	各授業回における課題（50%） レポート（自身の研究について，課題と方法論に焦点を当てて：50%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	佐藤　臨太郎（他）2022 効果的英語授業の設計 ―理解・練習・繰り返しを重視して 開拓社
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床英語科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	笠原　究（北海道教育大学），橋本　健一（大阪教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	共同
	授業概要	教材開発の視点を踏まえつつ，臨床英語科教育学研究における技能別指導・技能統合型指導について検討する。教科教育学と教科内容学の融合的視点も踏まえつつ，各技能，及び技能統合型の授業について映像や文献を通して知見を得て，自らの実践に生かせる教材開発の演習を行う。また，それらをベースにして，各自の研究課題・授業実践に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・英語科教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・教材開発の視点を踏まえつつ，臨床英語科教育研究における技能別指導・技能統合型指導について検討できる。 ・教材開発演習を通して，教科教育学・教科内容学的双方の視点から，開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題・授業実践に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（笠原，橋本） 第2~4回　英語リーディング指導の最先端（講義・演習：主として笠原） 第5～7回　英語リスニング指導の最先端（講義・演習：主として橋本） 第8～10回　英語ライティング指導の最先端（講義・演習：主として笠原） 第11～13回　英語スピーキング指導の最先端（講義・演習：主として橋本） 第14・15回　技能統合型指導の最先端（講義・演習：笠原，橋本）
	成績評価の方法	各授業回における課題（50%） 教材開発演習（50%）
	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考書・参考資料等	門田 修平・氏木 道人他 2010 英語リーディング指導ハンドブック 大修館書店 門田 修平・鈴木 寿一他 2018 英語リスニング指導ハンドブック 大修館書店 門田 修平・泉 惠美子他 2016 英語リーディング指導ハンドブック 大修館書店 山西 博之・大年 順子 2019 中・上級英語ライティング指導ガイド 大修館書店
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床英語科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎橋本　健一（大阪教育大学），笠原　究（北海道教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	火曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	共同
	授業概要	英語科教育における内容学研究の動向について，主として言語材料に焦点を当てつつ概観し，英語科内容学研究が臨床英語科教育学にもたらす示唆や臨床英語科内容学のあり方をについて検討する。また，これらの融合的視点を踏まえて，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・英語科教育における内容学研究の動向について，独力で文献などから知見を得ることができて，それらを臨床教科教育的視点から考察することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（笠原，橋本） 第2~4回　英語音声習得研究の最先端（講義・演習：主として橋本） 第5～7回　英語語彙習得研究の最先端（講義・演習：主として笠原） 第8～10回　英語文法習得研究の最先端（講義・演習：主として橋本） 第11～13回　英語圏文化研究の最先端（講義・演習：主として笠原） 第14・15回　各自の研究課題に関する検討（講義・演習：笠原，橋本）
	成績評価の方法	各授業回における課題（50%），ミニリサーチプロポーザル（50%）
	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考書・参考資料等	中田 達也・鈴木 祐一(編）2022 英語学習の科学 研究社
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床社会科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎峯　明秀（大阪教育大学），坂井　清隆（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	火曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	社会科教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，臨床社会科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究についてを理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・社会科教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床社会科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（担当教員全員） 第2回　社会科教育の理論的基盤（社会科の本質）峯 第3回　社会科教育の理論的基盤（社会科の歴史と政策）坂井 第4回　社会科教育学の研究動向（社会科の性格規定）峯 第5回　社会科教育学の研究動向（カリキュラム編成･単元構成）坂井 第6回　社会科教育学の研究方法（教育目標と評価）峯 第7回　社会科教育学の研究方法（教育方法と技術）坂井 第8回　社会科教師教育と研究1　峯 第９回　社会科教師教育と研究2　坂井 第10回　研究構想の紹介と焦点化（演習，峯・坂井） 第11回　研究構想の紹介と焦点化（演習，峯・坂井） 第12回　研究構想の紹介と焦点化（演習，峯・坂井） 第13回　研究構想の紹介と焦点化（演習，峯・坂井） 第14回　研究構想の紹介と焦点化（演習，峯・坂井） 第15回　講義のまとめ（担当教員全員）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（レポート，討議, 30%） ・社会科教育学研究特有の研究方法の理解（レポート，討議, 30%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議, 40%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	草原 和博,溝口和宏,桑原敏典『社会科教育学研究法ハンドブック』明治図書,2015,ISBN9784181956134　アレキサンダー ジョージ, アンドリュー ベネット, Alexander L. George『社会科学のケース・スタディ―理論形成のための定性的手法』勁草書房，2013，ISBN: 978-4326302147
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床社会科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	津田　拓郎（北海道教育大学），峯　明秀（大阪教育大学），坂井　清隆（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床社会科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・社会科教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床社会科教育研究における教材開発の理論的枠組みを検討することができる。 ・教材開発演習を通して，教科教育学的視点，教科内容学的視点の双方から，開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（全員） 第2回　社会科教育学研究における教材開発の位置付け（講義，坂井） 　社会科教育学研究における教材開発の位置づけについて，教科教育の教員が講義を行う。 第3回　社会科内容学研究における教材開発の位置付け（講義，津田） 　社会科内容学研究における教材開発の位置づけについて，教科専門の教員が講義を行う。 第4回～第9回　「事例研究」社会科教育学における教材開発研究（演習，峯・坂井） 　受講者が社会科教育学の教材開発研究事例について紹介し，教科教育の教員，教科専門の教員の視点の双方から，教材開発の在り方について議論する。 第10回～第13回　社会科教育における教材開発演習（演習，坂井　峯） 　受講者が各自の研究課題に応じて，教材開発演習を行う。構想した教材について，各回，教科教育教員，教科専門教員を交えた議論を行い，開発した教材の意義や授業化の可能性について検討する。 第14回　教材開発における教科教育学，教科内容学の視点（演習，全員） 　教材開発演習を振り返り，教材開発における教科教育学，教科内容学の融合について議論し，教材開発研究におけるそれぞれの役割について検討する。 第15回　講義のまとめ（全員）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・教材開発研究の位置付けの理解（レポート，討議, 30%） ・社会科教育における教材開発事例の理解（レポート，討議, 30%） ・各自の研究課題に応じた教材開発演習の成果（レポート，討議, 40%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	子どものシティズンシップ教育研究会 『社会形成科社会科論:批判主義社会科の継承と革新』風間書房,2019,ISBN:9784759922813
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床社会科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎津田　拓郎（北海道教育大学），峯　明秀（大阪教育大学），坂井　清隆（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	火曜・６限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	社会科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また，個別の専門分野の視点から社会科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・社会科内容学の研究枠組みについて，社会科教育学の視点との融合を視野に入れた検討ができる。 ・個別の専門分野の視点からの社会科内容学研究について，先進的な研究知見を習得する。 ・個別の専門分野の視点から，臨床社会科内容学研究の枠組みについて検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（全員） 第2回　社会科内容学研究の位置付け（担当教員全員）　社会科内容学研究の在り方について，教科専門，教科教育の双方の視点から議論し，新たな研究領域としての教科内容学について検討する。 第3回　社会科内容学の検討1（従来の時代区分論と教科書における時代区分の現状）（津田） 第4回　社会科内容学の検討2（時代区分論に関する近年の動向1-「古代」の位置づけ）（津田） 第5回　社会科内容学の検討3（時代区分論に関する近年の動向2-「中世」の位置づけ）（津田） 第6回　社会科内容学の検討4（時代区分論に関する近年の動向3-「近世」の位置づけ）（津田） 第7回　社会科内容学の検討5（時代区分論に関する近年の動向4「近現代」の位置づけ）（津田） 第8回　社会科内容学の検討6（歴史学の新潮流1）（津田） 第9回　社会科内容学の検討7（歴史学の新潮流2）（津田） 第10回　社会科内容学の検討8（歴史学の新潮流3）（津田） 第11回　社会科内容学の検討9（歴史学の新潮流4）（津田） 第12回　社会科内容学の検討10（教科書における歴史学の新潮流の反映状況）（津田） 各回において，個別の専門分野の視点から社会科内容学がどのような研究領域として臨床教科学に貢献できるかを，最新の研究文献を講読しつつ検討し，専門分野の研究成果を紹介するとともに，それらの研究成果を臨床教科学として位置付けるための研究枠組みを提案し，受講者との議論を行う。「歴史学の新潮流」1～4については，受講者の興味関心に応じて内容を確定するが，グローバル・ヒストリー，人類史，歴史と神話，歴史認識の歴史，大衆文化と歴史学といった近年表れている歴史学の新潮流について扱う。 第13回～第14回：教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論 学生の発表と議論（全員） 　教科専門教員による第3回～12回の講義を踏まえ，教科内容学と教科教育学が融合的に臨床教科学に位置づくための研究枠組みについて議論する。 第15回　講義のまとめ（全員）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・社会科内容学研究の研究枠組みについての検討（レポート，討議, 30%） ・個別の専門分野の視点からの社会科内容学研究についての理解（レポート，討議, 30%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議, 40%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	歴史学研究会『歴史学における方法論的展開（現代歴史学の成果と課題1980-2000年I）』青木書店，2002年／南川高志他「時代区分論」『思想』1149，20020年，pp. 1-141／その他適宜必要に応じて授業の中で紹介する
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床理科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎吉本　直弘（大阪教育大学），甲斐　初美（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	集中
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	理科教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，臨床理科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・理科教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床理科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（吉本・甲斐） 第2回　理科教育学の研究動向1（学習論と子どもの自然認識研究）（講義，甲斐） 第3回　理科教育学の研究動向2（教授論と理科授業デザイン研究）（講義，甲斐） 第4回　理科教育学の研究動向3（評価論と理科のカリキュラム研究）（講義，甲斐） 第5回　理科教育学の研究動向4（自然体験，環境教育，STEAM教育）（講義，吉本） 第6回　理科教育学の研究動向5（理科教師教育論）（講義，吉本） 第7回　理科教育学の研究方法1（調査方法の概観及び調査の文脈が調査に与える影響）（講義，甲斐） 第8回　理科教育学の研究方法2（質問紙調査やインタビュー調査とその分析方法 －計量テキスト分析を中心に－）（講義，吉本） 第9回　理科教育学の研究方法3（授業実践調査とその分析方法 －プロトコル分析を中心に－）（講義，甲斐） 第10回～第14回　研究構想の紹介と焦点化（受講者の紹介する各自の研究構想についての議論，及び研究課題の焦点化）（演習，吉本・甲斐） 第15回　講義のまとめ（吉本・甲斐）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（レポート，討議）30% ・理科教育学研究特有の研究方法の理解（レポート，討議）20% ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議）50%
	テキスト	・日本理科教育学会編著．『理論と実践をつなぐ理科教育学研究の展開』，東洋館出版社，2022.
	参考書・参考資料等	・文部科学省．『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』，東洋館出版社，2018. ・文部科学省．『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』，学校図書，2018. ・文部科学省．『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編 理数編』，実教出版，2019. ・樋口耕一，中村康則，周景龍．『動かして学ぶ！ はじめてのテキストマイニング』，ナカニシヤ出版，2022. ・樋口耕一．『社会調査のための計量テキスト分析　第2版』，ナカニシヤ出版，2020.
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床理科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	吉本　直弘（大阪教育大学），尾関　俊浩（北海道教育大学），小山　耕平（北海道教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床理科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・理科教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床理科教育研究における教材開発の理論的枠組みを検討することができる。 ・教材開発演習を通して，教科教育学的視点，教科内容学的視点の双方から，開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（吉本・尾関・小山） 第2回　理科教育学研究における教材開発の位置付け（講義，吉本）　理科教育学研究における教材開発の位置付けについて講義を行う。 第3回　理科内容学研究における教材開発の位置付け（講義，尾関）　理科内容学研究における教材開発の位置付けについて講義を行う。 第4回～第8回　事例研究（理科教育学における教材開発研究）（演習，各回教科教育教員または教科専門教員から計2名） 　第4回　事例研究１（ICT機器の活用とオンライン資料の活用の事例）（演習，吉本・小山） 　第5回　事例研究２（演示実験装置の教材開発事例）（演習，尾関・吉本） 　第6回　事例研究３（野外観察と室内観察による教材開発事例）（演習，尾関・小山） 　第7回　事例研究４（教材開発の臨床データの解析事例）（演習，小山・吉本） 　第8回　事例研究５（教材開発のための統計データの解析手法）（演習，小山・尾関） 第9回～第13回　理科教育学における教材開発演習（演習，各回担当教員全員）（吉本・尾関・小山）　受講者が各自の研究課題に応じて，教材開発演習を行う。構想した教材について，各回，教科教育教員，教科専門教員を交えた議論を行い，開発した教材の意義や授業化の可能性について検討する。 第14回　教材開発における教科教育学，教科内容学の視点（演習，担当教員全員）（吉本・尾関・小山）　教材開発演習を振り返り，教材開発における教科教育学，教科内容学の融合について議論し，教材開発研究におけるそれぞれの役割について検討する。 第15回　講義のまとめ（吉本・尾関・小山）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・教材開発研究の位置付けの理解（レポート，討議）30% ・理科教育における教材開発事例の理解（レポート，討議）20% ・各自の研究課題に応じた教材開発演習の成果（レポート，討議）50%
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	・日本理科教育学会編著．『理論と実践をつなぐ理科教育学研究の展開』，東洋館出版社，2022. ・文部科学省．『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』，東洋館出版社，2018. ・文部科学省．『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』，学校図書，2018. ・文部科学省．『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編 理数編』，実教出版，2019. ・岩瀬徹，川名興，飯島和子．『新訂 校庭の雑草（野外観察ハンドブック）』，全国農村教育協会，2021. ・岩瀬徹，大野啓一．『写真で見る植物用語（野外観察ハンドブック）』，全国農村教育協会，2004. ・日本雪氷学会編．『積雪観測ガイドブック』，朝倉書店，2010. ・舟尾暢男．『The R Tips 第3版: データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集』，オーム社，2016.
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床理科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎吉本　直弘（大阪教育大学），尾関　俊浩（北海道教育大学），小山　耕平（北海道教育大学），鈴木　剛（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	集中
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	理科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また，個別の専門分野の視点から理科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・理科内容学の研究枠組みについて，理科教育学の視点との融合を視野に入れた検討ができる。 ・個別の専門分野の視点からの理科内容学研究について，先進的な研究知見を習得する。 ・個別の専門分野の視点から，臨床理科内容学研究の枠組みについて検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（尾関・小山・鈴木・吉本） 第2回　理科内容学研究の位置付け（講義・演習，吉本）　理科内容学研究の在り方について，教科専門，教科教育の双方の視点から議論し，新たな研究領域としての教科内容学について検討する。 第3回～第12回　理科内容学の検討（理学の視点から）（講義・演習，各回教科専門教員1名，オムニバス）　各回において，個別の専門分野の視点から理科内容学がどのような研究領域として臨床教科学に貢献できるかを検討する。最新の専門分野の研究成果を紹介するとともに，それらの研究成果を臨床教科学として位置付けるための研究枠組みを提案し，受講者との議論を行う。 第3回　研究紹介1（植物遺伝子分野における研究成果紹介）（講義，鈴木） 第4・5回　臨床研究提案1（植物遺伝子分野における理科内容学）（演習，鈴木） 第6回　研究紹介2（植物生態学分野における研究成果紹介）（講義，小山） 第7回　臨床研究提案2（植物生態学分野における理科内容学）（演習，小山） 第8回　研究紹介3（自然災害分野における研究成果紹介）（講義，尾関） 第9・10回　臨床研究提案3（自然災害分野，放射線分野における理科内容学）（演習，尾関） 第11回　研究紹介4（気象学分野における研究成果紹介）（講義，吉本） 第12回　臨床研究提案4（気象学分野における理科内容学）（演習，吉本） 第13回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論１（演習，鈴木・小山）　教科専門教員による第3回～第７回の講義を踏まえ，教科内容学と教科教育学が融合的に臨床教科学に位置付くための研究枠組みについて議論する。 第14回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論２（演習，尾関・吉本）　教科専門教員による第８回～第12回の講義を踏まえ，教科内容学と教科教育学が融合的に臨床教科学に位置付くための研究枠組みについて議論する。 第15回　講義のまとめ（尾関・小山・鈴木・吉本）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・理科内容学研究の研究枠組みについての検討（レポート，討議）20% ・個別の専門分野の視点からの理科内容学研究についての理解（レポート，討議）30% ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議）50%
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	・日本理科教育学会編著．『理論と実践をつなぐ理科教育学研究の展開』，東洋館出版社，2022. ・文部科学省．『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』，東洋館出版社，2018. ・文部科学省．『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』，学校図書，2018. ・文部科学省．『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編 理数編』，実教出版，2019. ・巌佐庸編，倉谷滋編，斎藤成也編，塚谷裕一編．『岩波　生物学辞典　第5版』，岩波書店，2013. ・小学校・中学校・高等学校理科教科書
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床数学科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎有元　康一（福岡教育大学），大滝　孝治（北海道教育大学），町頭　義朗（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	火曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	数学教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，臨床数学科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・数学教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床数学科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（大滝，町頭，有元） 第2回　数学教育学の研究動向１（目的・目標論）（有元） 第3回　数学教育学の研究動向２（学習指導論）（有元） 第4回　数学教育学の研究動向３（数学科内容学との接点）（有元） 第5回　数学教育学の研究方法１（数学教育学におけるアクションリサーチ）（町頭） 第6回　数学教育学の研究方法２（数学教育学におけるデザイン研究）（町頭） 第7回　数学教育学の研究動向4（教授人間学理論（ATD）の基礎1 :プラクセオロジー）（大滝） 第8回　数学教育学の研究動向5（教授人間学理論（ATD）の基礎2 :教授転置）（大滝） 第9回　数学教育学の研究方法3（教授人間学理論（ATD）の基礎3 :生態分析）（大滝） 第10回～第14回　研究構想の紹介と焦点化（演習）（各回，大滝，町頭，有元） 受講者が各自の研究構想を紹介するとともに，前半の講義における先進的な研究動向や研究方法に照らして議論を行い，研究課題の焦点化を図る。 第15回　講義のまとめ（大滝，町頭，有元）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（レポート，討議，30%） ・数学科教育学研究特有の臨床的研究方法の理解（レポート，討議，30%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議，40%）
	テキスト	毎回，必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	・日本数学教育学会．『数学教育学研究ハンドブック』，東洋館出版，2010. 教授人間学理論(ATD)関連 ・Bosch, M., Chevallard, Y., García, F. J., & Monaghan, J. (Eds.) (2019), Working with the anthropological theory of the didactic: A comprehensive casebook. Routledge. ・Chevallard, Y., Barquero, B., Bosch, M., Florensa, I., Gascón, J., Nicolás, P., & Ruiz-Munzón N., (Eds.) (2022), Advances in the anthropological theory of the didactic. Birkäuser.
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床数学科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	大滝　孝治（北海道教育大学），町頭　義朗（大阪教育大学），有元　康一（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床数学科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・数学教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床数学科教育研究における教材開発の理論的枠組みを検討することができる。 ・教材開発演習を通して，教科教育学的視点，教科内容学的視点の双方から，開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（大滝，町頭，有元） 第2回　数学教育学研究における教材開発（講義，有元） 第3回　数学科内容学研究における教材開発（講義，有元） 第4回　事例研究１（代数・幾何領域における教材開発事例）（演習，有元） 第5回　事例研究2（解析・確率統計領域における教材開発事例）（演習，町頭） 第6回　事例研究3（領域融合による教材開発事例）（演習，町頭） 第7回　探究（SRP：Study & Research Path）の教授工学I（探究の経験）（講義・演習，大滝） 第8回　探究（SRP：Study & Research Path）の教授工学2（探究の分析）（講義・演習，大滝） 第9回　探究（SRP：Study & Research Path）の教授工学3（探究の設計）（講義・演習，大滝） 第10回～第14回　数学科教育における教材開発演習（演習，大滝，町頭，有元）　受講者が各自の研究課題に応じて，教材開発演習を行う。構想した教材について，各回，教科教育教員，教科専門教員を交えた議論を行い，開発した教材の意義や授業化の可能性について検討する。 第15回　講義のまとめ（大滝，町頭，有元）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・教材開発研究の位置付けの理解（レポート，討議，30%） ・数学科教育における教材開発事例の理解（レポート，討議，50%） ・各自の研究課題に応じた教材開発演習の成果（レポート，討議，20%）
	テキスト	適宜必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	・長岡亮介.『改訂版 数学の歴史』，放送大学教育振興会，1997. 教授人間学理論(ATD)関連 ・Bosch, M., Chevallard, Y., García, F. J., & Monaghan, J. (Eds.) (2019), Working with the anthropological theory of the didactic: A comprehensive casebook. Routledge. ・Chevallard, Y., Barquero, B., Bosch, M., Florensa, I., Gascón, J., Nicolás, P., & Ruiz-Munzón N., (Eds.) (2022), Advances in the anthropological theory of the didactic. Birkäuser.
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床数学科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎有元　康一（福岡教育大学），大滝　孝治（北海道教育大学），町頭　義朗（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	金曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	数学科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また，個別の専門分野の視点から数学科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・数学科内容学の研究枠組みについて，数学教育学の視点との融合を視野に入れた検討ができる。 ・個別の専門分野の視点からの数学科内容学研究について，先進的な研究知見を習得する。 ・個別の専門分野の視点から，臨床数学科内容学研究の枠組みについて検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（大滝，町頭，有元） 第2回　数学科内容学研究の位置付け（講義・演習，大滝，町頭，有元） 第3回　臨床数学科内容学の検討１（論理）（講義・演習，町頭） 第4回　臨床数学科内容学の検討２（確率・統計）（講義・演習，町頭） 第5回　臨床数学科内容学の検討３（微分幾何学）（講義・演習，町頭） 第6回　臨床数学科内容学の検討４（位相幾何学）（講義・演習，町頭） 第7回　臨床数学科内容学の検討5（代数構造）（講義・演習，有元） 第8回　臨床数学科内容学の検討6（整数論）（講義・演習，有元） 第9回　臨床数学科内容学の検討7（離散数学）（講義・演習，有元） 第10回　プラクセオロジー分析1（小学校算数と大学数学の関係）（講義・演習，大滝） 第11回　プラクセオロジー分析2（中学校数学と大学数学の関係）（講義・演習，大滝） 第12回　プラクセオロジー分析3（高校数学と大学数学の関係）（講義・演習，大滝） 第13回～第14回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論（演習，大滝，町頭，有元） 第15回　講義のまとめ（大滝，町頭，有元）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・数学科内容学研究及び臨床数学科内容学研究の研究枠組みについての検討（レポート，討議，30%） ・個別の専門分野の視点からの数学科内容学研究についての理解（レポート，討議，50%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議，20%）
	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考書・参考資料等	教授人間学理論(ATD)関連 ・Bosch, M., Chevallard, Y., García, F. J., & Monaghan, J. (Eds.) (2019), Working with the anthropological theory of the didactic: A comprehensive casebook. Routledge. ・Chevallard, Y., Barquero, B., Bosch, M., Florensa, I., Gascón, J., Nicolás, P., & Ruiz-Munzón N., (Eds.) (2022), Advances in the anthropological theory of the didactic. Birkäuser.
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床情報科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎寺嶋　浩介（大阪教育大学），三島　和宏（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	月曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	情報科教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，臨床情報科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・情報科教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床情報科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（全員） 第2回～第６回　情報科教育学の研究動向（講義，各回担当教員1名） 　情報科教育学の最新の研究動向について，科目担当者がオムニバス方式で講義を行う。 第2回　情報科教育学の研究動向1（学力論）（寺嶋） 第3回　情報科教育学の研究動向2（カリキュラム・マネジメント）（寺嶋） 第4回　情報科教育学の研究動向3（授業設計理論）（寺嶋） 第5回　情報科教育学の研究動向4（学習環境の構築）（三島） 第6回　情報科教育学の研究動向5（学習者支援）（三島） 第7回～第９回　情報科教育学の研究方法（講義，各回担当教員１名） 　情報科教育学に特有の研究方法について，科目担当者がオムニバス方式で講義を行う。 第7回　情報科教育学の研究手法1（インストラクショナルデザイン）（寺嶋） 第8回　情報科教育学の研究手法2（アクションリサーチ）（寺嶋） 第9回　情報科教育学の研究手法3（システム設計・開発）（三島） 第10回～第14回　研究構想の紹介と焦点化（演習，各回担当教員全員） 　受講者が各自の研究構想を紹介するとともに，前半の講義における先進的な研究動向や研究方法に照らして議論を行い，研究課題の焦点化を図る。 第15回　講義のまとめ（担当教員全員）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（レポート，討議）30% ・情報科教育研究特有の研究方法の理解（レポート，討議）30% ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議）40%
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	文部科学省・高校情報科に関する特設ページ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床情報科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	寺嶋　浩介（大阪教育大学），三島　和宏（大阪教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床情報科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・情報科教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床情報科教育研究における教材開発の理論的枠組みを検討することができる。 ・教材開発演習を通して，教科教育学的視点，教科内容学的視点の双方から，開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（担当教員全員） 第2回　情報科教育研究における教材開発の位置付け（講義，寺嶋） 　情報科教育研究における教材開発の位置づけについて，教科教育の教員が講義を行う。 第3回　情報科内容学研究における教材開発の位置付け（講義，三島） 　情報科内容学研究における教材開発の位置づけについて，教科専門の教員が講義を行う。 第4回～第8回　「事例研究」情報科教育学における教材開発研究（演習，寺嶋，三島） 　受講者が情報科教育学の教材開発研究事例について紹介し，教科教育の教員，教科専門の教員の視点の双方から，教材開発の在り方について議論する。 第9回～第13回　情報科教育における教材開発演習（演習，各回担当教員全員） 　受講者が各自の研究課題に応じて，教材開発演習を行う。構想した教材について，各回，教科教育教員，教科専門教員を交えた議論を行い，開発した教材の意義や授業化の可能性について検討する。 第14回　教材開発における教科教育学，教科内容学の視点（演習，担当教員全員） 　教材開発演習を振り返り，教材開発における教科教育学，教科内容学の融合について議論し，教材開発研究におけるそれぞれの役割について検討する。 第15回　講義のまとめ（担当教員全員）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・教材開発研究の位置付けの理解（レポート，討議 30%） ・情報科教育における教材開発事例の理解（レポート，討議 20%） ・各自の研究課題に応じた教材開発演習の成果（レポート，討議 50%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	文部科学省・高校情報科に関する特設ページ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床情報科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎寺嶋　浩介（大阪教育大学），三島　和宏（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	11/30,12/14,12/25,12/26いずれも2-5限（12/26の5限は予備）
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	情報科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科教育学的視点から教科内容学研究の理論的枠組みを検討する。また，情報科を構成する内容領域の観点から臨床情報科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・情報科教育における内容学研究の動向について，臨床教科教育的視点から考察することができる。 ・情報科を構成する内容領域の観点から情報科内容学研究と情報科教育学の融合について検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（寺嶋，三島） 第2回　情報科内容学研究の位置付け１（情報科の内容構成）（講義，寺嶋，三島） 第3回　情報科内容学研究の位置付け２（情報科内容学とは）（講義，三島，寺嶋） 第4回　臨床情報科内容学の検討１（情報化社会の問題解決）（講義・演習，寺嶋） 第5回　臨床情報科内容学の検討２（コミュニケーションと情報デザイン）（講義・演習，寺嶋） 第6回　臨床情報科内容学の検討３（コンピュータとプログラミング）（講義・演習，三島） 第7回　臨床情報科内容学の検討４（情報通信ネットワークとデータの活用）（講義・演習，三島） 第8回　臨床情報科内容学の検討５（情報Ⅰと情報Ⅱの関連，専門教科としての情報）（講義・演習，三島） 第9回　臨床情報科内容学の検討６（他校種との接続）（講義・演習，寺嶋） 第10回～第11回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた検討（演習，寺嶋，三島） 　教科内容学研究と教科教育学研究との融合について，これまでの講義を踏まえて検討・議論する。 第12回～第14回　各自の研究課題に関する臨床教科内容学的観点からの検討（演習，寺嶋，三島） 　受講者が各自の研究課題に応じて教科内容学的観点からの分析・考察を行い，課題研究に向けた示唆を得る。 第15回　講義のまとめ（寺嶋，三島）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・情報科内容学研究及び臨床情報科内容学研究の研究枠組みについての検討（レポート，討議，30%） ・情報科教育学と情報科内容学との融合についての検討（レポート，討議，50%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議，20%）
	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考書・参考資料等	文部科学省・高校情報科に関する特設ページ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床音楽科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎兼平　佳枝（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	月曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	
	授業概要	音楽科教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，理論と実践を往還する臨床音楽科教育研究に特有の研究方法のひとつである逐語記録を中心とした「授業分析」について理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・音楽科教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床音楽科教育研究に特有の研究方法のひとつとして逐語記録に基づいた「授業分析」について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス 第2回　音楽科教育学の研究動向（講義） 第3回　臨床音楽科教育研究としての音楽科教育実践学の在り方（講義） 第4回　逐語記録に基づく「授業分析」①資料の収集と記録（講義と演習） 　第1次資料の収集と記録の方法についての講義と演習を行う。 第5回　逐語記録に基づく「授業分析」②資料の作成（講義と演習） 　第1次資料を第2次資料とするための資料の作成方法についての講義と演習を行う。 第6回　逐語記録に基づく「授業分析」③資料の分析（講義と演習） 　作成した資料の分析方法についての講義と演習を行う。 第7回　逐語記録に基づく「授業分析」④資料の解釈と記述（講義と演習） 　分析方法に基づいた解釈および記述の方法についての講義と演習を行う。 第8回～第14回　「授業分析」の実際（講義と演習） 　第4回～第7回の講義と演習の内容に照らして，受講者各自の進捗状況に合わせて，そこでの資料の収集や作成方法，分析，解釈や記述の方法についての妥当性について議論する。 第15回　講義のまとめ
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（レポート，討議：20%） ・音楽科教育実践学研究特有の研究方法の理解（レポート，討議：40%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議：40%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	重松　鷹恭（1961）『授業分析の方法』明治図書出版 日比　裕・的場　正美編（1999）『授業分析の方法と課題』黎明書房 的場　正美・柴田　好章編（2013）『授業研究と授業の創造』溪水社
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床音楽科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	兼平　佳枝（大阪教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	
	授業概要	音楽科の教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床音楽科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また，小中高等学校での音楽科授業における具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における音楽科教科教育学と音楽科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・音楽教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床音楽科教育研究における教材開発の理論的枠組みを検討することができる。 ・教材開発演習を通して，音楽科教育学的視点，音楽科内容学的視点の双方から，開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス 第2回　音楽科教育学研究における教材とは（講義・演習） 　音楽科教育学研究における教材のとらえ方について講義・演習を行う。 第3回　音楽科教育学研究における教材研究とは（講義・演習） 　音楽科教育学研究における教材研究のとらえ方やその方法について講義・演習を行う。 第4回　音楽科内容学研究における音楽科の教科内容のとらえ方（講義・演習） 　音楽科内容学研究における教科内容のとらえ方について講義・演習を行う。 第5回　音楽科教育学研究と音楽科内容学研究の双方を融合する音楽科教材開発研究とは（講義・演習） 　音楽科教育学研究と音楽科内容学研究の双方を融合する音楽科教材開発研究の在り方について講義・演習を行う。 第6回～第9回　「事例研究」音楽科教育学における教材開発研究（演習） 　受講者が各自の研究課題に応じて，教材開発を行った内容についてプレゼンテーションし，教材開発の在り方について教員と受講生を交えた議論を行う。 第10回～第13回　教材開発研究に基づく模擬授業演習（演習） 　「事例研究」でのプレゼンテーション及びそこでの議論を踏まえて模擬授業を行い，教員と受講生を交え成果と課題について検討する。 第14回　教材開発における音楽科教育学，音楽科内容学の視点（演習） 　教材開発演習を振り返り，教材開発における音楽科教育学，音楽科内容学の融合について議論し，教材開発研究におけるそれぞれの役割について検討する。 第15回　講義のまとめ
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（レポート，討議：20%） ・音楽科教育実践学研究特有の研究方法の理解（レポート，討議：40%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議：40%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する」とする
	参考書・参考資料等	『音楽教育実践学辞典』（2017）音楽之友社
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床音楽科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎兼平　佳枝（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	水曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	
	授業概要	音楽科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における音楽科教育学的視点から音楽科内容学研究の理論的枠組みを検討する。また，音楽科を構成する内容領域の観点から臨床音楽科内容学のあり方を検討するとともに，音楽科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・音楽科教育における内容学研究の動向について，臨床教科教育的視点から考察することができる。 ・音楽科を構成する内容領域の観点から音楽科内容学研究と音楽科教育学の融合について検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス 第2回　音楽科内容学研究の位置付け１（音楽科の内容構成）（講義） 第3回　音楽科内容学研究の位置付け２（音楽科内容学とは）（講義） 以下，第4～9回に取り上げる具体の教材は受講者の研究対象の状況に合わせて適宜選択するものとする。 第4回　臨床音楽科内容学からみた教科内容及びその体系の検討１（小学校歌唱共通教材）（講義・演習） 第5回　臨床音楽科内容学からみた教科内容の体系の検討２（中学校歌唱共通教材）（講義・演習） 第6回　臨床音楽科内容学からみた教科内容の体系の検討３（小学校鑑賞教材）（講義・演習） 第7回　臨床音楽科内容学からみた教科内容の体系の検討４（中学校鑑賞教材）（講義・演習） 第8回　臨床音楽科内容学からみた教科内容の体系の検討５（小学校器楽教材）（講義・演習） 第9回　臨床音楽科内容学からみた教科内容の体系の検討６（中学校器楽教材）（講義・演習） 第10回～第11回　音楽科内容学と音楽科教育学の融合に向けた検討（演習） 　教科内容学研究と教科教育学研究との融合について，これまでの講義を踏まえて具体の事例（教材と授業実践）を想定して検討・議論する。 第12回～第14回　各自の研究課題に関する臨床音楽科内容学的観点からの検討（演習） 　受講者が各自の研究課題に応じて教科内容学的観点からの分析・考察を行い， 課題研究に向けた示唆を得る。 第15回　講義のまとめ
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・音楽科内容学からみた各種教材にみる教科内容とその体系についての検討（レポート，討議，60%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議，40%）
	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考書・参考資料等	日本教科内容学会編 西園芳信監修（2021）『教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発 』あいり出版
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床美術科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎渡邉　美香（大阪教育大学），李　知恩（北海道教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	集中
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	美術教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，美術教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・美術教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・美術教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（渡邉） 第2回　美術教育学の研究動向1（美術教育学とは何か）（講義，渡邉） 第3回　美術教育学の研究動向2（子どもの表現と人間形成について）（講義，渡邉） 第4回　美術教育学の研究動向3（授業デザインとカリキュラム研究）（講義，渡邉） 第5回　美術教育学の研究動向4（地域課題と感性評価）（講義，李） 第6回　美術教育学の研究動向5（グローバル課題と感性評価）（講義，李） 第7回　美術教育学の研究方法1（美術制作と学習支援）（講義，渡邉） 第8回　美術教育学の研究方法2（授業者の視点とエピソード記述）（講義，渡邉） 第9回　美術教育学の研究方法3（授業記録とアクションリサーチ）（講義，渡邉） 第10回　研究構想の紹介と焦点化（受講者の研究構想に基づく議論）（演習，渡邉） 第11回　研究構想の紹介と焦点化（美術教育学の視点から研究課題の焦点化）（演習，渡邉） 第12回　研究構想の紹介と焦点化（受講者の研究構想に基づく議論）（演習，李） 第13回　研究構想の紹介と焦点化（教科内容の視点から研究課題の焦点化）（演習，李） 第14回　研究構想の紹介と焦点化（研究課題のプレゼン）（演習，渡邉，李） 第15回　講義のまとめ（渡邉）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（レポート，討議　25%） ・美術教育学研究特有の研究方法の理解（レポート，討議　25%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議　50%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	永守　基樹編（2018）『美術教育学叢書1 美術教育学の現在から』学術研究出版，直江　俊雄編（2022）『美術教育学叢書3　美術教育学 私の研究技法』 学術研究出版
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床美術科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	渡邉　美香（大阪教育大学），李　知恩（北海道教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	題材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床美術教育学研究における題材開発研究の理論的枠組みを論じる。また，具体的な題材開発の演習を通して，題材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・美術教育学における題材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・美術教育研究における題材開発の理論的枠組みを検討することができる。 ・題材開発演習を通して，教科教育学的視点，教科内容学的視点の双方から，開発した題材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（渡邉，李） 第2回　美術教育学研究における題材開発の位置付け（講義，渡邉） 第3回　教科内容学研究における題材開発の位置付け（講義，李） 第4回　事例研究1：幼児の造形（受講者が美術教育学の題材研究事例について紹介し，教科教育，教科専門の双方の視点から，題材開発の在り方について議論する。）（演習，渡邉，李） 第5回　事例研究2：図画工作科での表現活動（受講者が美術教育学の題材研究事例について紹介し，教科教育，教科専門の双方の視点から，題材開発の在り方について議論する。）（演習，渡邉，李） 第6回　事例研究3：中学校美術科での表現活動（受講者が美術教育学の題材研究事例について紹介し，教科教育，教科専門の双方の視点から，題材開発の在り方について議論する。）（演習，渡邉，李） 第7回　事例研究4：高等学校美術・工芸科での表現活動（受講者が美術教育学の題材研究事例について紹介し，教科教育，教科専門の双方の視点から，題材開発の在り方について議論する。）（演習，渡邉，李） 第8回　事例研究5：鑑賞活動（受講者が美術教育学の題材研究事例について紹介し，教科教育，教科専門の双方の視点から，題材開発の在り方について議論する。）（演習，渡邉，李） 第9回　美術教育における題材開発演習（受講者が各自の研究課題に応じて，構想した題材案（表現・鑑賞）についてプレゼンテーションを行う。教科教育，教科専門の視点を交え議論を行い，題材の意義や授業化の可能性について検討する。）（演習，渡邉，李） 第10回　美術教育における題材開発演習（表現題材について模擬授業を通し検討する）（演習，李） 第11回　美術教育における題材開発演習（表現題材について模擬授業を通し検討する）（演習，渡邉） 第12回　美術教育における題材開発演習（鑑賞題材について模擬授業を通し検討する）（演習，渡邉） 第13回　美術教育における題材開発演習（鑑賞題材について模擬授業を通し検討する）（演習，李） 第14回　題材開発における教科教育学，教科内容学の視点（題材開発演習を振り返り，題材開発における教科教育学，教科内容学の融合について議論し，題材開発研究におけるそれぞれの役割について検討する。）（演習，渡邉，李） 第15回　講義のまとめ（渡邉，李）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・題材開発研究の位置付けの理解（レポート，討議　20%） ・美術教育における題材開発事例の理解（レポート，討議　40%） ・各自の研究課題に応じた題材開発演習の成果（レポート，討議　40%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	三澤　一実編（2020）『美術の授業のつくりかた』武蔵野美術大学出版局，新井　哲夫編（2016）『美術教育学-美術科教育における授業研究のすすめ方』美術科教育学会授業研究部会2016
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床美術科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎李　知恩（北海道教育大学），渡邉　美香（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	集中
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式
	授業概要	美術教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における美術教育学的視点から美術内容学研究の理論的枠組みを検討する。また，図画工作・美術科を構成する内容領域の観点から臨床美術内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・美術教育における内容学研究の動向について，臨床教科教育的視点から教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。 ・図画工作・美術科を構成する内容領域の観点から教科内容学研究と教科教育学の融合について検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（李） 第2回　美術内容学研究の位置付け（李） 第3回　臨床美術内容学の検討1（小学校・表現）（渡邉） 第4回　臨床美術内容学の検討2（小学校・鑑賞）（渡邉） 第5回　臨床美術内容学の検討3（中学校・表現）（渡邉） 第6回　臨床美術内容学の検討4（中学校・鑑賞）（渡邉） 第7回　臨床美術内容学の検討5（デザインの発想）（李） 第8回　臨床美術内容学の検討6（デザインの表現）（李） 第9回　臨床美術内容学の検討7（デザインの分析）（李） 第10回　臨床美術内容学の検討8（感性評価）（李） 第11回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた検討1 (図画工作の事例研究) （李） 第12回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた検討2（美術の事例研究）（李） 第13回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた検討3（受講者の研究課題に応じて）（李） 第14回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた検討4（受講者の研究課題に応じて）（李） 第15回　講義のまとめ（李）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・美術内容学からみた各題材にみる教科内容とその体系についての検討（レポート，討議，60%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議，40%）
	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考書・参考資料等	日本教科内容学会編　西園　芳信監修（2021）『教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発 』あいり出版，三澤　一実編（2020）『美術の授業のつくりかた』武蔵野美術大学出版局
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床保健体育科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎林　洋輔（大阪教育大学），中島　寿宏（北海道教育大学），石川　美久（大阪教育大学），本多　壮太郎（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	月曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	保健体育科教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，臨床保健体育科教育学研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・保健体育教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床保健体育科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（林） 第2回　保健体育科教育学の最新の研究動向：体育科教育学の歴史と現状（本多） 第3回　保健体育科教育学の最新の研究動向：初等中等教育学の歴史と現状（中島） 第4回　保健体育科教育学の最新の研究動向：武道学の歴史と現状（石川） 第5回　保健体育科教育学の最新の研究動向　体育哲学の歴史と現状（林） 第6回　保健体育科教育学の最新の研究動向：体育科教育学の課題（本多） 第7回　保健体育科教育学の最新の研究動向：初等中等教育学の課題　（中島） 第8回　保健体育科教育学の最新の研究動向：武道学の課題（石川） 第9回　保健体育科教育学の最新の研究動向　体育哲学の課題（林） 第10回～第14回　研究構想の紹介と焦点化（演習，本多，中島，石川，林） 　受講者が各自の研究構想を紹介するとともに，前半の講義における先進的な研究動向や研究方法に照らして議論を行い，研究課題の焦点化を図る。 第15回　講義のまとめ（中島）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（40%:レポート20%，討議20%） ・保健体育科教育学研究特有の研究方法の理解（40%:レポート20%，討議20%） ・各自の研究課題の焦点化（20%:レポート10%，討議10%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	林洋輔『体育の学とはなにか』　道和書院，2023年。
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床保健体育科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	板谷　厚（北海道教育大学），中島　寿宏（北海道教育大学），神林　勲（北海道教育大学），森田　憲輝（北海道教育大学），石川　美久（大阪教育大学），林　洋輔（大阪教育大学），本多　壮太郎（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床保健体育科教育学研究における教材開発研究の理論的枠組みを論じる。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得ることを目的とする。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・保健体育教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床保健体育科教育研究における教材開発の理論的枠組みを検討することができる。 ・教材開発演習を通して，教科教育学的視点，教科内容学的視点の双方から，開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（林） 第2回　保健体育科教育学研究における教材開発の位置付け（講義，板谷） 　保健体育科教育学研究における教材開発の位置づけについて，各教員が講義。 第3回　保健体育科内容学研究における教材開発の位置付け（講義，中島） 　保健体育科内容学研究における教材開発の位置づけに各教員が講義。 第4回～第8回　「事例研究」保健体育科教育学における教材開発研究（演習，神林，森田，石川，本多，林） 　受講者が保健体育科教育学の教材開発研究事例について紹介し，教科教育の教員，教科専門の教員の視点の双方から，教材開発の在り方について議論する。 第9回～第13回　保健体育科教育における教材開発演習（演習，板谷，中島，神林，森田，石川） 　受講者が各自の研究課題に応じて，教材開発演習を行う。構想した教材について，各回，教科教育教員，教科専門教員を交えた議論を行い，開発した教材の意義や授業化の可能性について検討する。 第14回　保健体育学の領域に関する，教材開発における教科教育学，教科内容学の視点（演習，本多）教材開発演習を振り返り，教材開発における教科教育学，教科内容学の融合について議論し，教材開発研究における各役割について検討する。 第15回　講義のまとめ（林）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・教材開発研究の位置付けの理解（40%:レポート20%，討議20%） ・保健体育科教育における教材開発事例の理解（40%:レポート20%，討議20%） ・各自の研究課題に応じた教材開発演習の成果（20%:レポート10%，討議10%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	林洋輔『体育の学とはなにか』　道和書院，2023年。
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床保健体育科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎林　洋輔（大阪教育大学），板谷　厚（北海道教育大学），中島　寿宏（北海道教育大学），神林　勲（北海道教育大学），森田　憲輝（北海道教育大学），石川　美久（大阪教育大学），本多　壮太郎（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	火曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	保健体育科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また，個別の専門分野の視点から保健体育科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・保健体育科内容学の研究枠組みについて，保健体育科教育学の視点との融合を視野に入れた検討ができる。 ・個別の専門分野の視点からの保健体育科内容学研究について，先進的な研究知見を習得する。 ・個別の専門分野の視点から，臨床保健体育科内容学研究の枠組みについて検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（林） 第2回　保健体育科内容学研究の位置付け　保健体育科内容学研究の在り方について，教科専門，教科教育の双方の視点から議論し，新たな研究領域としての教科内容学について検討する。（板谷） 第3回　保健体育科内容学の検討。初等中等教育学の視点から保健体育科内容学がどのような研究領域として臨床教科学に貢献できるかを検討する。（中島） 第4回　保健体育科内容学の検討。健康・スポーツ科学の視点から保健体育科内容学がどのような研究領域として臨床教科学に貢献できるかを検討する。（神林） 第5回　保健体育科内容学の検討。身体教育学の視点から保健体育科内容学がどのような研究領域として臨床教科学に貢献できるかを検討する。（森田） 第6回　保健体育科内容学の検討。武道学の視点から保健体育科内容学がどのような研究領域として臨床教科学に貢献できるかを検討する。（石川） 第7回　保健体育科内容学の検討。体育科教育学の視点から保健体育科内容学がどのような研究領域として臨床教科学に貢献できるかを検討する。（本多） 第8回　保健体育科内容学の検討。体育哲学の視点から保健体育科内容学がどのような研究領域として臨床教科学に貢献できるかを検討する。（林） 第9回　保健体育科内容学の検討。教育学の視点から保健体育科内容学がどのような研究領域として臨床教科学に貢献できるかを検討する。（板谷） 第10回　保健体育科内容学の検討。初等中等教育学の研究成果を臨床教科学として位置付けるための研究枠組みを提案し、その妥当性を討議する。（中島） 第11回　保健体育科内容学の検討。健康・スポーツ科学の研究成果を臨床教科学として位置付けるための研究枠組みを提案し、その妥当性を討議する。（神林） 第12回　保健体育科内容学の検討。身体教育学の研究成果を臨床教科学として位置付けるための研究枠組みを提案し、その妥当性を討議する。（森田） 第13回～第14回　保健体育学の領域に関する，教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論（演習，石川，本多） 　教科専門教員による第3回～12回の講義を踏まえ，教科内容学と教科教育学が融合的に臨床教科学に位置づくための研究枠組みについて議論する。 第15回　講義のまとめ（林）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・保健体育科内容学研究の研究枠組みについての検討（40%:レポート20%，討議20%） ・個別の専門分野の視点からの保健体育科内容学研究についての理解（40%:レポート20%，討議20%） ・各自の研究課題の焦点化（20%:レポート10%，討議10%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	林　洋輔『体育の学とはなにか』　道和書院，2023年。
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床技術科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎藤川　聡（北海道教育大学），大内　毅（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	月曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	技術科に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，臨床技術科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・技術科学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床技術科教育研究に特有の研究方法である臨床的研究について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（藤川，大内） 第2回　技術科の研究動向１（目的論）（講義，藤川） 第3回　技術科の研究動向２（技術科教育の系譜）（講義，藤川） 第4回　技術科の研究動向３（教育課程）（講義，藤川） 第5回　技術科の研究動向４（学習・評価）（講義，藤川） 第6回　技術科の研究動向５（技術教育関連分野）（講義，藤川） 第7回　技術科の研究方法１（カリキュラム・授業開発の研究）（講義，藤川） 第8回　技術科の研究方法２（教育心理学からの研究方法）（講義，藤川） 第9回　技術科の研究方法３（その他の研究方法：歴史，国際比較，他）（講義，藤川） 第10回～第14回　研究構想の紹介と焦点化（演習，藤川，大内） 　受講者が各自の研究構想を紹介するとともに，前半の講義における先進的な研究動向や研究方法に照らして議論を行い，研究課題の焦点化を図る。 第15回　講義のまとめ（藤川，大内）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（レポート，討議，30%） ・臨床技術科教育学研究特有の研究方法の理解（レポート，討議，30%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議，40%）
	テキスト	毎回，必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	『技術科教育概論』日本産業技術教育学会・技術教育分科会編，九州大学出版会，2018.
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床技術科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	藤川　聡（北海道教育大学），大内　毅（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教材開発に関する最新の研究動向について概観し，臨床技術科教育研究における教材開発研究の理論的枠組みを理解する。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・技術科教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・臨床技術科教育研究における教材開発の理論的枠組みを検討することができる。 ・教材開発演習を通して，教科教育学的視点，教科内容学的視点の双方から， 　開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（藤川，大内） 第2回　技術科教育学研究における教材開発の位置付け（講義，藤川） 第3回　技術科内容学研究における教材開発の位置付け（講義，大内） 第4回　事例研究1（ガイダンスにおける教材開発事例）（演習，藤川） 第5回　事例研究2（材料加工における教材開発事例）（演習，大内） 第6回　事例研究3（エネルギー変換における教材開発事例）（演習，藤川） 第7回　事例研究4（生物育成における教材開発事例）（演習，藤川） 第8回　事例研究5（情報における教材開発事例）（演習，大内） 第9回　事例研究6（複合題材における教材開発事例）（演習，大内） 第10回～第14回　技術科教育における教材開発演習（演習，藤川，大内） 　受講者が各自の研究課題に応じて教材開発演習を行う。構想した教材について各回，教科教育教員，教科専門教員を交えた議論を行い，開発した教材の意義や授業化の可能性について検討する。 第15回　講義のまとめ（藤川，大内）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・教材開発研究の位置付けの理解（レポート，討議，30%） ・技術科教育における教材開発事例の理解（レポート，討議，50%） ・各自の研究課題に応じた教材開発演習の成果（レポート，討議，20%）
	テキスト	適宜必要な資料を配布する。
	参考書・参考資料等	『技術科教育概論』日本産業技術教育学会・技術教育分科会編，九州大学出版会，2018.
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床技術科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎大内　毅（福岡教育大学），藤川　聡（北海道教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	木曜・７限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	技術科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また，個別の専門分野の視点から臨床技術科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・技術科内容学の研究枠組みについて，技術科教育学の視点との融合を視野に入れた検討ができる。 ・個別の専門分野の視点からの技術科内容学研究について，先進的な研究知見を習得する。 ・個別の専門分野の視点から，臨床技術科内容学研究の枠組みについて検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（大内，藤川） 第2回　技術科内容学研究の位置付け（講義・演習，大内，藤川） 第3回　臨床技術科内容学の検討1（材料加工①：木材）（講義・演習，大内） 第4回　臨床技術科内容学の検討2（材料加工②：金属）（講義・演習，大内） 第5回　臨床技術科内容学の検討3（材料加工③：プラスチック，他）（講義・演習，大内） 第6回　臨床技術科内容学の検討4（エネルギー変換①：エネルギーと社会）（講義・演習，大内） 第7回　臨床技術科内容学の検討5（エネルギー変換②：電気）（講義・演習，大内） 第8回　臨床技術科内容学の検討6（エネルギー変換③：機械）（講義・演習，大内） 第9回　臨床技術科内容学の検討7（生物育成）（講義・演習，大内） 第10回　臨床技術科内容学の検討8（情報①：計測・制御のプログラミング）（講義・演習，大内） 第11回　臨床技術科内容学の検討9（情報②：情報モラル）（講義・演習，大内） 第12回　臨床技術科内容学の検討10（複合的な内容）（講義・演習，大内） 第13回～14回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論（演習，大内，藤川） 教科専門教員による第3回～12回の講義を踏まえ，教科内容学と教科教育学が臨床という視点から融合的に臨床教科学に位置づくための研究枠組みについて議論する。 第15回　講義のまとめ（大内，藤川）
	成績評価の方法	成績評価については，以下の観点と方法により総合的に行う。 ・技術科内容学研究及び臨床技術科内容学研究の研究枠組みについての検討（レポート，討議，30%） ・個別の専門分野の視点からの臨床技術科内容学研究についての理解（レポート，討議，50%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート，討議，20%）
	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考書・参考資料等	『技術科教育概論』日本産業技術教育学会・技術教育分科会編，九州大学出版会，2018.
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床家庭科教育研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎貴志　倫子（福岡教育大学），碓田　智子（大阪教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	火曜・7限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	家庭科教育学に関する最新の研究動向について概観し，先進的な研究知見を習得するとともに，教科教育学研究に特有の研究方法を理解し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・家庭科教育学に関する先進的な研究知見を習得する。 ・家庭科教育学に特有の研究方法について理解する。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス　（貴志・碓田） 第2回　家庭科教育学の研究動向1（国内外の教科目的論）（講義，貴志） 第3回　家庭科教育学の研究動向2（国内外の教科カリキュラム論）（講義，貴志） 第4回　家庭科教育学の研究動向3（国内外の授業研究　（講義，貴志） 第5回　家庭科教育学の研究動向4（問題解決学習の系譜）（講義，貴志） 第6回　家庭科教育学の研究動向5（多様な主体との協働）（講義，貴志） 第7回　家庭科教育学の研究方法1（歴史・比較研究）　（講義，貴志） 第8回　家庭科教育学の研究方法2（量的研究）（講義，貴志） 第9回　家庭科教育学の研究方法3（質的研究）　（講義，貴志） 第10回　家庭科教育学の研究方法4（アクションリサーチ）（講義，貴志） 第11回　家庭科教育学の研究方法5（フィールド調査法）（講義，貴志） 第12~14回　研究構想の紹介と焦点化　（演習，貴志・碓田） 　受講者が各自の研究構想を発表するとともに，前半の講義における先進的な研究動向や研究方法に照らして議論を行い，研究課題の焦点化を図る。 第15回　講義のまとめ　（貴志・碓田）
	成績評価の方法	以下の観点と方法により総合的に行う。 ・先進的な研究動向の理解（レポート・討議，30%） ・家庭科教育学研究特有の研究方法の理解（レポート・討議，30%） ・各自の研究課題の焦点化（レポート・討議，40%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	日本家庭科教育学会編『家庭科教育研究が拓く地平―「よりよい生活」のための実践的教育科学概論』学文社，2024(刊行予定) 日本教科教育学会『教科教育研究ハンドブック―今日から役立つ研究手引き』教育出版,2017
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床家庭科教材開発研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	碓田　智子（大阪教育大学），貴志　倫子（福岡教育大学）
	開講学期	前期
	開講時期	前期
	曜日・時限	
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	教材開発に関する最新の研究動向について概観し，家庭科教育における教材開発研究の理論的枠組み を理解する。また，具体的な教材開発の演習を通して，教材開発研究における教科教育学と教科内容学の視点の融合について検討し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・家庭科教育学における教材開発研究に関する先進的な研究知見を習得する。 ・教材開発演習を通して，教科教育学的視点，教科内容学的視点の双方から，開発した教材を検討することができる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス （碓田・貴志） 第2回　家庭科教育学研究における教材開発の位置付け （講義，貴志） 第3回　家庭科内容学研究における教材開発の位置付け （講義，碓田） 第4回　事例研究1（生活文化にかかる教材開発事例）（演習，碓田） 第5回　事例研究2（まちづくりにかかる教材開発事例）（演習，碓田） 第6回　事例研究3（安全な生活環境にかかる教材開発事例）（演習，碓田） 第7回　事例研究4（家族・家庭生活にかかる教材開発事例）（演習，貴志） 第8回　事例研究5（消費生活・環境にかかる教材開発事例）（演習，貴志） 第9回　事例研究6（ESDにかかる領域融合の教材開発事例）（演習，貴志） 第10~13回　家庭科教育における教材開発演習 （演習，碓田・貴志） 　受講者が各自の研究研究課題に応じて教材開発を行い，開発した教材を発表して共有するとともに，議論を通して授業化の可能性を検討する。 第14回　教材開発における教科教育学，教科内容学の視点 （演習，碓田・貴志） 第15回　講義のまとめ （碓田・貴志）
	成績評価の方法	以下の観点と方法により総合的に行う。 ・教材開発研究の位置付けの理解（レポート・討議，30%） ・家庭科教育における教材開発事例の理解（レポート・討議，50%） ・各自の研究課題に応じた教材開発演習の成果（レポート・討議，20%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	日本家庭科教育学会『未来の生活をつくる：家庭科で育む生活リテラシー』明治図書，2019 住総研「おとなのための住まい学」研究委員会 『おとなのための住まい力：知識・経験・リテラシ－』ドメス出版，2020
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	

シラバス

※「担当教員」欄の◎は令和７年度開講科目の主担当教員を示す。

科目情報	科目名	臨床家庭科内容学研究
	クラス	（３大学共同で１クラス開設）
	担当教員	◎碓田　智子（大阪教育大学），貴志　倫子（福岡教育大学）
	開講学期	後期
	開講時期	後期
	曜日・時限	火曜・7限
	科目区分	分野科目
	単位区分	選択必修
	単位数	2
	備考	
講義情報	授業形態	演習
	授業形式（授業担当教員が複数の場合）	オムニバス方式・共同（一部）
	授業概要	家庭科教育における内容学研究の研究動向について概観し，臨床教科学における教科内容学研究の理論的枠組みを理解する。また，社会の諸課題との関わりの視点から家庭科内容学のあり方を検討するとともに，教科教育学との融合についても議論し，各自の研究課題に対する示唆を得る。
	対応するディプロマ・ポリシー	DP2：教員養成系の学士課程・教職大学院を含む大学院課程等における高度な教員養成または教育委員会における教員研修等を遂行し得る能力 DP3：臨床発達教育科学もしくは臨床教科学に関わる学校教育の諸課題についての研究を自立的，独創的に遂行する資質・能力
	授業の到達目標	・家庭科内容学の研究枠組みについて，家庭科教育学の視点との融合を視野に入れた検討ができる。 ・社会の諸課題との関わりの視点からの家庭科内容学研究について，先進的な研究知見を習得する。 ・社会の諸課題との関わり視点から，臨床家庭科内容学研究の枠組みについて検討できる。 ・講義・演習を通して得られた知見を，各自の研究課題に生かすことができる。
講義情報	授業の計画（各回における準備学習・授業形態等を含む）	第1回　ガイダンス（碓田，貴志） 第2回　家庭科内容学研究の位置付け（講義・演習，碓田，貴志） 第3回　臨床家庭科内容学の検討１（歴史の視点から）（講義・演習，碓田） 第4回　臨床家庭科内容学の検討２（地域性の視点から）（講義・演習，碓田） 第5回　臨床家庭科内容学の検討３（生活文化の視点）（講義・演習，碓田） 第6回　臨床家庭科内容学の検討４（生活環境の視点）（講義・演習，碓田） 第7回　臨床家庭科内容学の検討５（生活経営・ジェンダーの視点から）（講義・演習，貴志） 第8回　臨床家庭科内容学の検討６（人口・家族構成の変化の視点から）（講義・演習，碓田） 第9回　臨床家庭科内容学の検討７（ライフスタイルの多様化の視点から）（講義・演習，碓田） 第10回　臨床家庭科内容学の検討８（防災・安全の視点から）（講義・演習，碓田） 第11回　臨床家庭科内容学の検討９（まちづくりの視点）（講義・演習，碓田） 第12回　臨床家庭科内容学の検討10（消費市民社会の視点から）（講義・演習，貴志） 第13回～第14回　教科内容学と教科教育学の融合に向けた議論（演習，碓田，貴志） 　教科専門教員による第3回～12回の講義を踏まえ，教科内容学と教科教育学が融合的に臨床教科学に位置づくための研究枠組みについて議論する。 第15回　講義のまとめ（碓田，貴志）
	成績評価の方法	以下の観点と方法により総合的に行う。 ・家庭科内容学の研究動向と理論的枠組みの理解（レポート・討議，20%） ・社会の変化や諸課題に対応した家庭科内容学の理解（レポート・討議，50%） ・教科教育学と融合した各自の研究課題の焦点化（レポート・討議，30%）
	テキスト	各回において必要な資料を配布する
	参考書・参考資料等	日本家政学会編『住まいの百科事典』丸善出版，2021 日本家政学会編『家族を読み解く12章』丸善出版，2018
	オフィスアワー	
	備考（履修上の注意等）	